

千代田区第8期障害福祉計画、第4期障害児
福祉計画策定のためのアンケート調査

報 告 書

令和7(2025)年9月

千 代 田 区

I 調査実施の概要

1	調査の目的.....	1
2	調査の項目.....	1
3	調査の設計.....	1
4	回収結果.....	1
5	この報告書のみかた.....	2
6	回答者の属性.....	2

II 調査結果の分析

1	日常生活上の手助けの状況について	
(1)	日常生活に必要な手助け.....	8
(2)	主な介助者.....	20
(3)	主な介助者の性別と年齢.....	26
(4)	主な介助者の健康状態.....	30
(5)	主な介助者の相談できる場の有無.....	32
(6)	介助者に必要な支援.....	34
2	障害や疾病の状況について	
(1)	身体障害者手帳の級.....	40
(2)	身体障害者手帳の主な障害.....	41
(3)	愛の手帳の度数.....	42
(4)	精神障害者保健福祉手帳の級.....	43
(5)	自立支援医療（精神通院医療）の受給の有無.....	44
(6)	難病認定の有無.....	45
(7)	発達障害の診断の有無.....	46
(8)	高次脳機能障害の診断の有無.....	48
(9)	手帳を持たない理由.....	50
(10)	医療的ケアの必要の有無.....	51
(11)	現在受けている医療的ケア.....	52
3	住まいや暮らしについて	
(1)	将来望む生活.....	58
(2)	地域で生活するために必要な支援.....	64

目次

4 日中の活動、スポーツやレクリエーションについて

- (1) 平日の日中の過ごし方 70
- (2) 1週間の外出の頻度 72
- (3) 外出時の主な同伴者 74
- (4) 外出の主な目的 76
- (5) 外出時に困ること 82
- (6) 外出に必要な支援 88
- (7) 障害児施設について困っていること 94

5 就園、就学について

- (1) 子どもの就園、就学先 95
- (2) 子どもの就園、就学先を選んだ理由 96
- (3) 園や学校で子どもを支援してくれている人 97
- (4) 子どもに役立っている特別な支援・配慮等 98

6 就労について

- (1) 就労の状況 100
- (2) 就労している場合の働き方 102
- (3) 一般就労の希望の有無 104
- (4) 一般就労したい理由 106
- (5) 仕事をするうえで困っていること 110
- (6) 必要な就労支援 114

7 障害福祉サービス等の利用について

- (1) 障害支援区分の有無 120
- (2) 要介護認定 122
- (3) 介護保険サービスの利用の有無 124
- (4) 障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 126

8 相談相手について

- (1) 悩みや困り事の相談先 145
- (2) 障害や障害福祉サービスの情報の入手先 157

9 災害時の避難について

- (1) 災害時の一人での避難の可否 169
- (2) 近隣の援助者の有無 171
- (3) 災害時に困ること 173

10	障害者差別解消法について	
(1)	障害者差別解消法の認知度	179
(2)	障害特性にあった特別な配慮が得られているか.....	181
(3)	特別な配慮が得られた場所	183
(4)	特別な配慮が得られていない場所	189
(5)	ヘルプマークやヘルプカードの認知度.....	195
11	福祉施策等について	
(1)	現在利用中の施設	197
(2)	将来利用したい施設	203
(3)	障害児について特に力を入れてほしい施策.....	210
(4)	住まいについて特に力を入れてほしい施策.....	216
(5)	就労について特に力を入れてほしい施策.....	220
(6)	生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策.....	222
(7)	余暇活動等について特に力を入れてほしい施策.....	228
(8)	その他の特に力を入れてほしい施策.....	234
12	特別設問（令和7年新設）	
(1)	福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態.....	239
(2)	紙の福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）を支持する理由	240
(3)	OriHime の認知度.....	241
(4)	OriHime 活用の有無.....	242
(5)	「良かったこと調査」の参加の有無.....	243

I 調査実施の概要

1 調査の目的

この調査は、千代田区に居住する障害者手帳所持者等の障害福祉サービス利用実態及び利用意向を把握し、第8期障害福祉計画、第4期障害児福祉計画を策定するための基礎資料とする目的で実施した。

2 調査の項目

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| (1) 日常生活上の手助けの状況について | (7) 障害福祉サービス等の利用について |
| (2) 障害や疾病の状況について | (8) 相談相手について |
| (3) 住まいや暮らしについて | (9) 災害時の避難について |
| (4) 日中の活動、スポーツやレクリエーションについて | (10) 障害者差別解消法について |
| (5) 就園、就学について | (11) 福祉施策等について |
| (6) 就労について | (12) 特別設間（令和7年新設） |

3 調査の設計

- (1) 調査地域 千代田区全域
- (2) 調査対象
- ① 身体障害者手帳所持者（以下、「身体」と示す）
 - ② 愛の手帳所持者（以下、「知的」と示す）
 - ③ 精神障害者手帳所持者及び精神通院医療助成受給者（以下、「精神」と示す）
 - ④ 難病医療費助成受給者（以下、「難病」と示す）
 - ⑤ 18歳未満の手帳所持者及び障害児福祉サービス利用者（障害児）（以下「障害児」と示す）
- (3) 調査方法 郵送・WEB（郵送配布一郵送・WEB回収）
- (4) 調査時期 令和7年7月26日～8月14日

4 回収結果

	実施年	標 本 数	有効回収数	有効回答率
① 身 体	令和7年	1,135	471	41.4%
	令和4年	1,177	414	35.2%
② 知 的	令和7年	125	57	45.6%
	令和4年	161	65	40.4%
③ 精 神	令和7年	773	171	22.1%
	令和4年	707	181	25.6%
④ 難 病	令和7年	390	112	28.7%
	令和4年	365	108	26.6%
⑤ 障害児	令和7年	296	102	34.5%
	令和4年	155	47	30.3%
合 計	令和7年	2,719	913	33.5%
	令和4年	2,565	815	31.9%

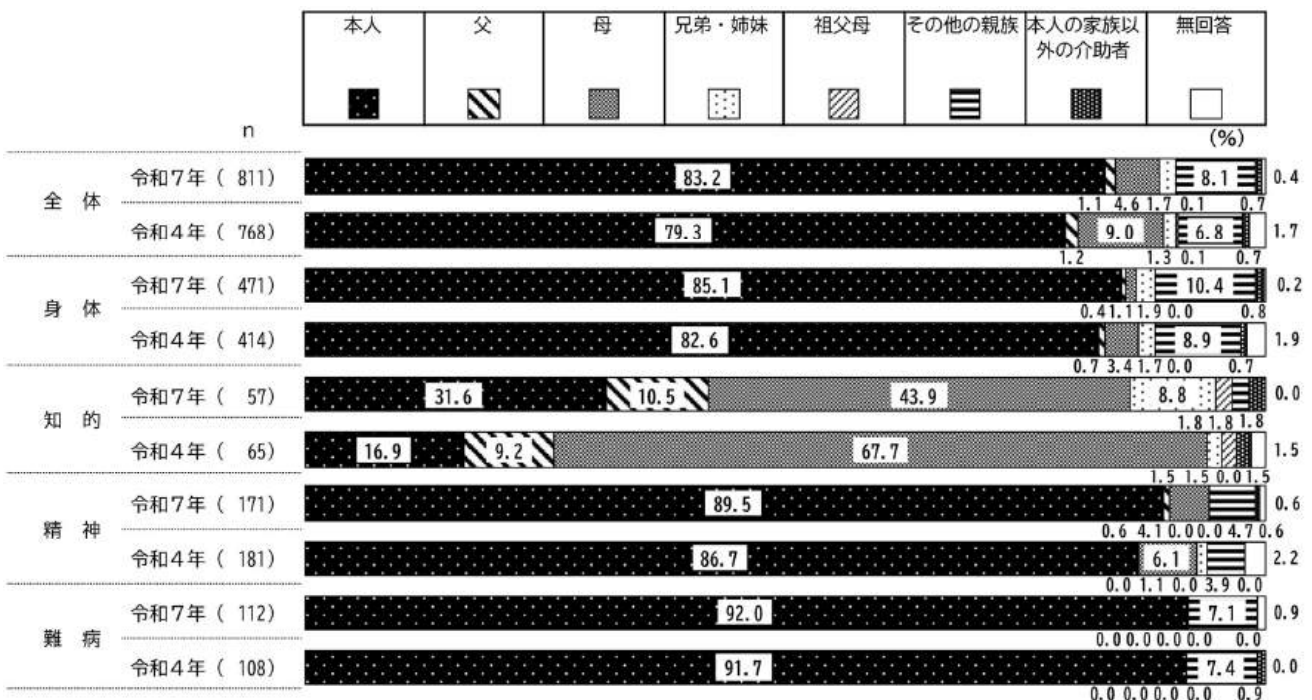
5 この報告書のみかた

- (1) 図表中の「n」は、各質問の回答者数を示す。
- (2) 調査結果の比率は、nを基数として比率を算出し、小数点以下第2位を四捨五入して第1位まで示した。したがって、すべての選択肢の比率を合計しても100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問においても、nを基数として比率を算出しているため、すべての選択肢の比率の合計は、通常100%を超える。
- (4) 調査票上、①身体、②知的、③精神、④難病の各調査では、障害者手帳所持者、難病患者及び障害福祉サービス利用者等本人を「あなた」と呼んで質問したのに対し、⑤障害児調査では、障害福祉サービス利用中の障害児本人を「お子さん」と呼んで質問した。この報告書に示した質問文のうち、⑤障害児調査の質問文は、①身体、②知的、③精神、④難病の各調査にない単独の質問でない限りすべて割愛し、①身体、②知的、③精神、④難病の各調査の質問文のみ掲載した。
- (5) 選択肢の文言が長い場合は、本文や図表中では、選択肢中のかっこ内の文言を省略した表現を用いた場合がある。

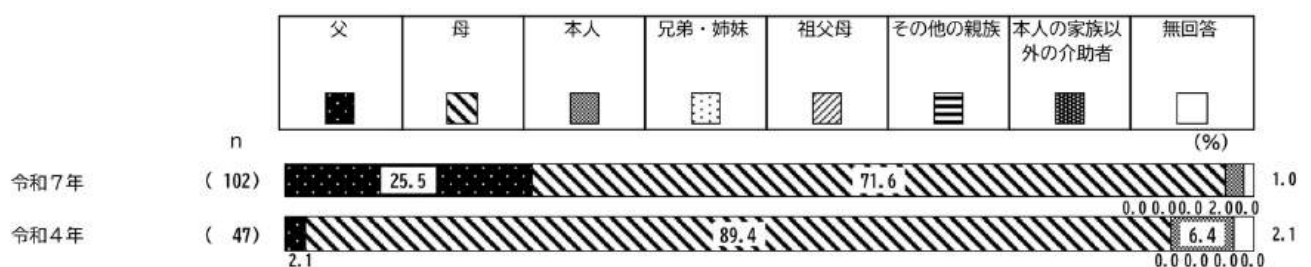
6 回答者の属性

(1) アンケートの記入者

<全体（身体、知的、精神、難病）>

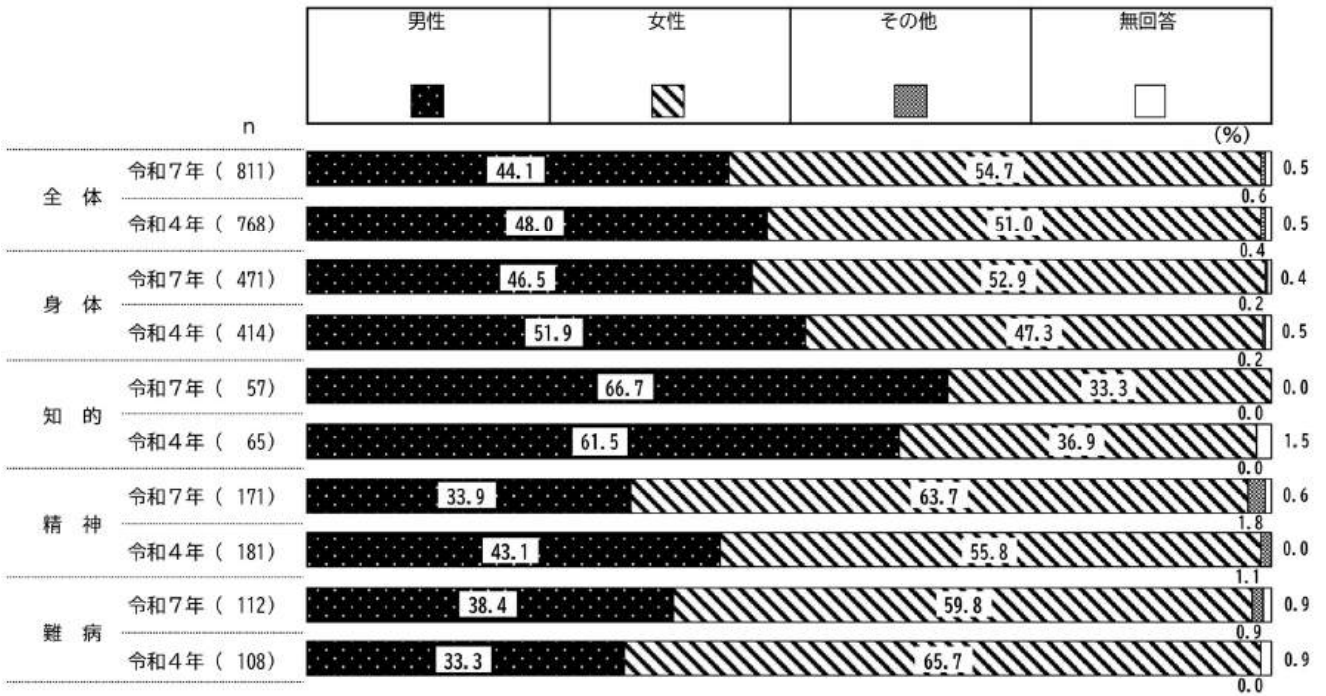


<障害児>

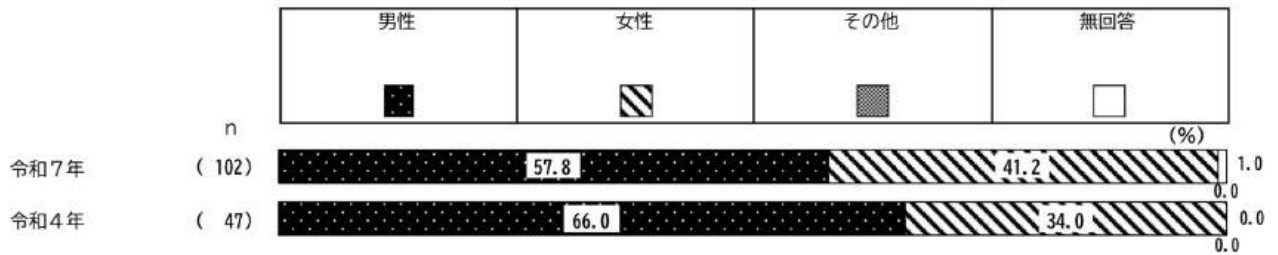


(2) 性別

<全体（身体、知的、精神、難病）>

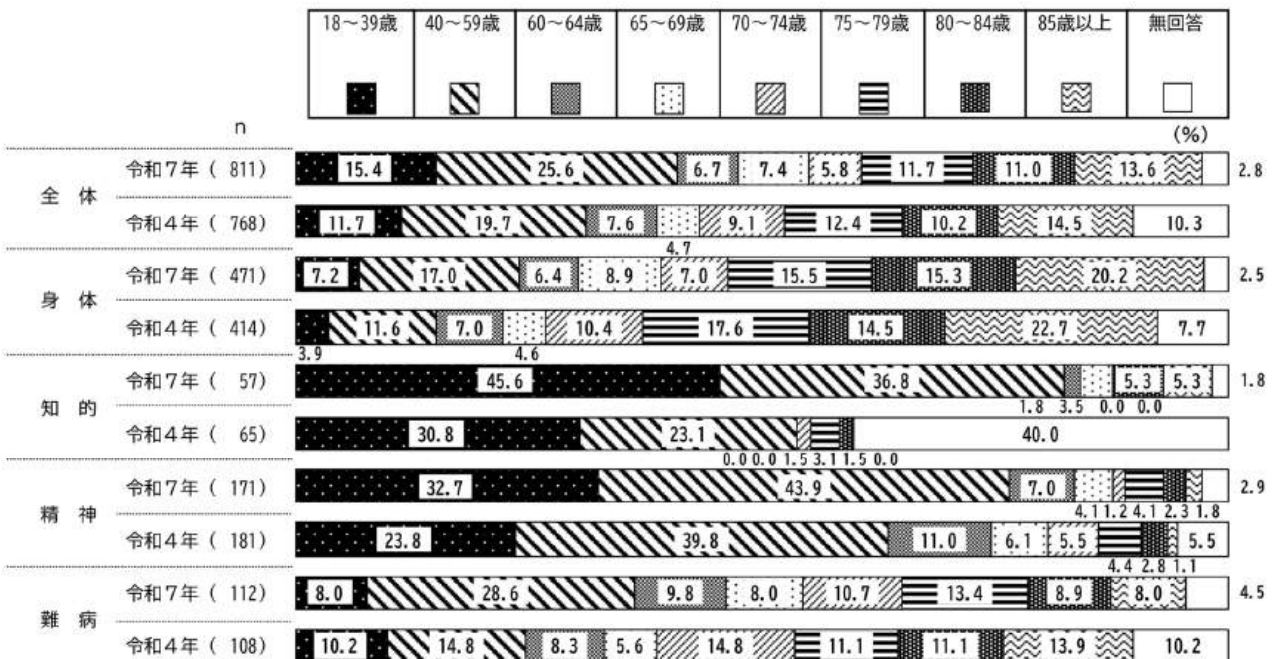


<障害児>

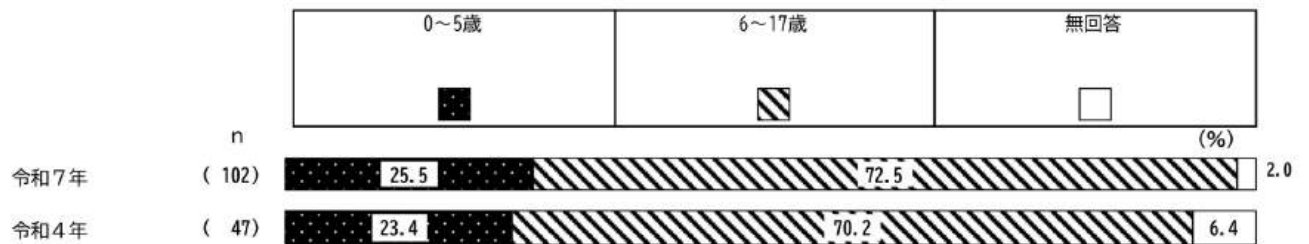


(3) 年齢

<全体（身体、知的、精神、難病）>

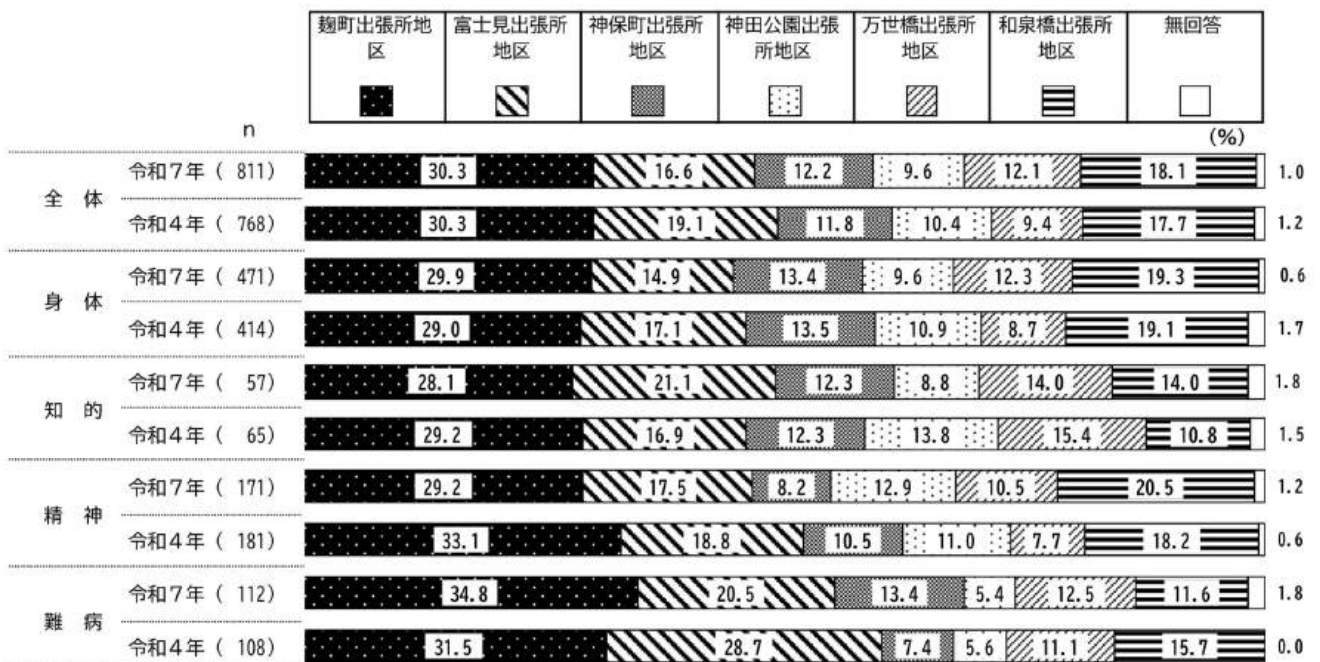


<障害児>

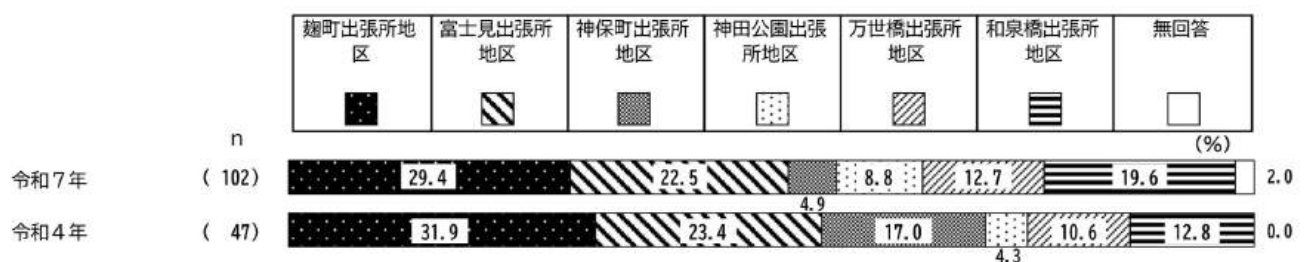


(4) 居住地区

<全体（身体、知的、精神、難病）>

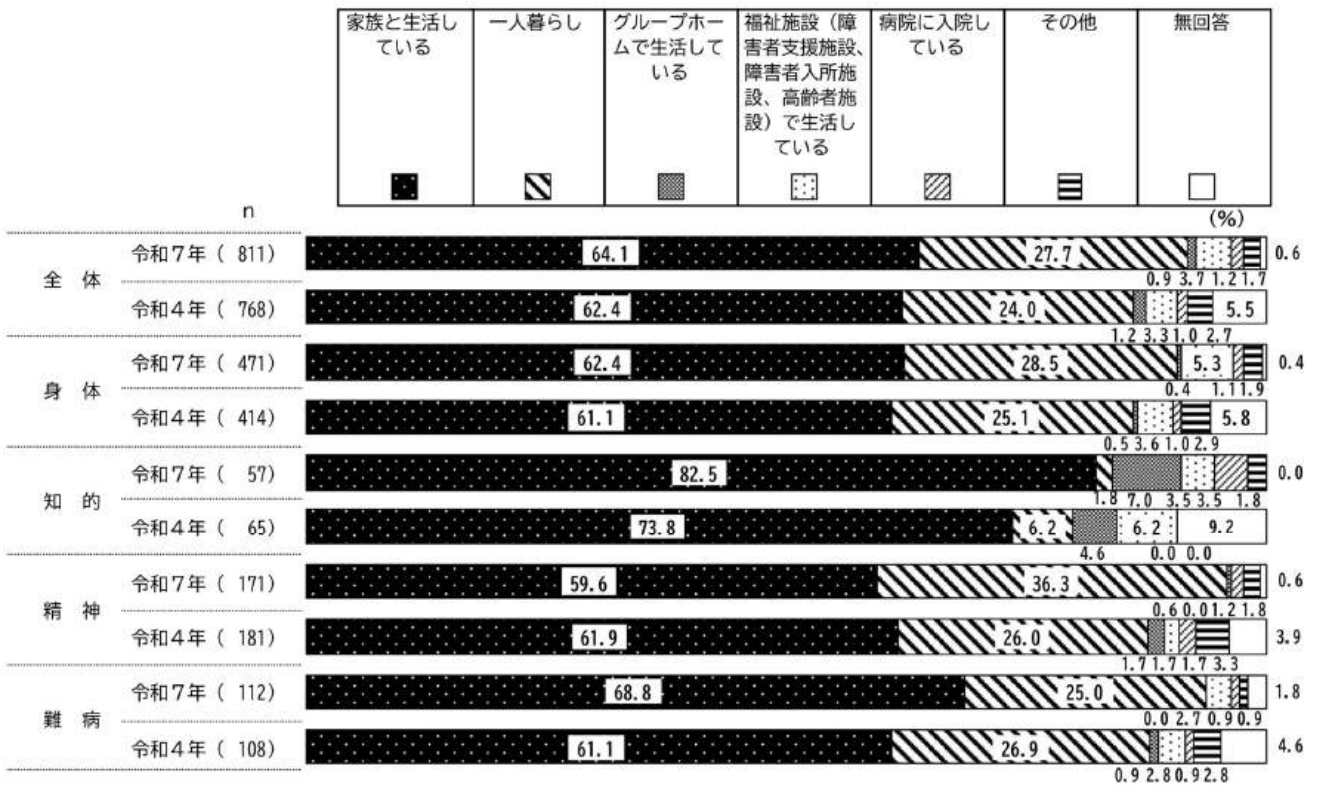


<障害児>

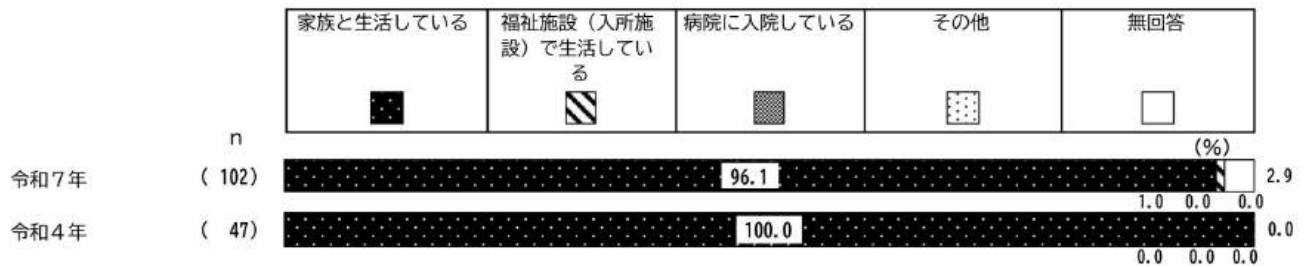


(5) 生活の状況

<全体（身体、知的、精神、難病）>

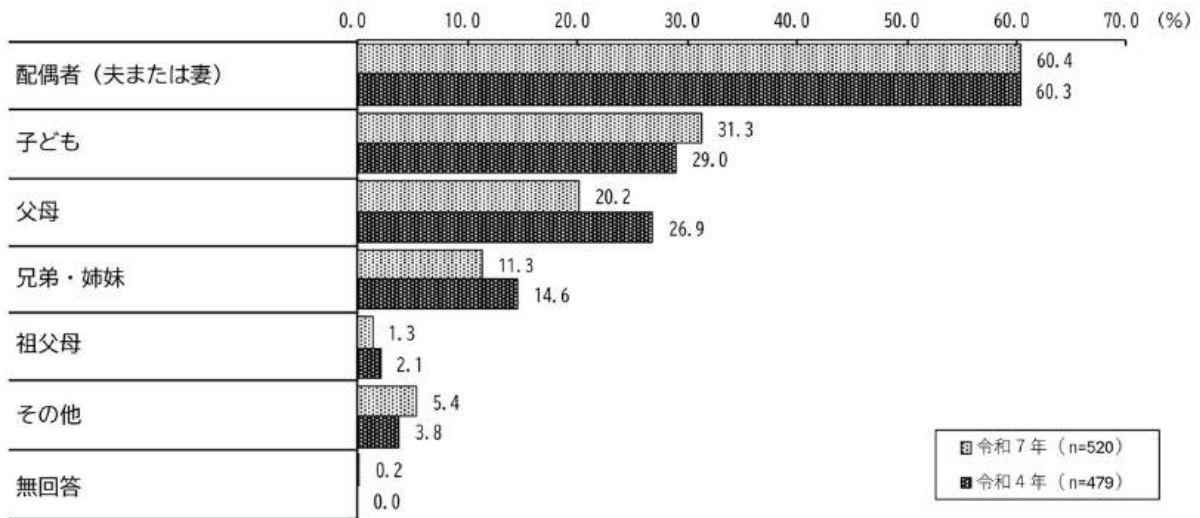


<障害児>

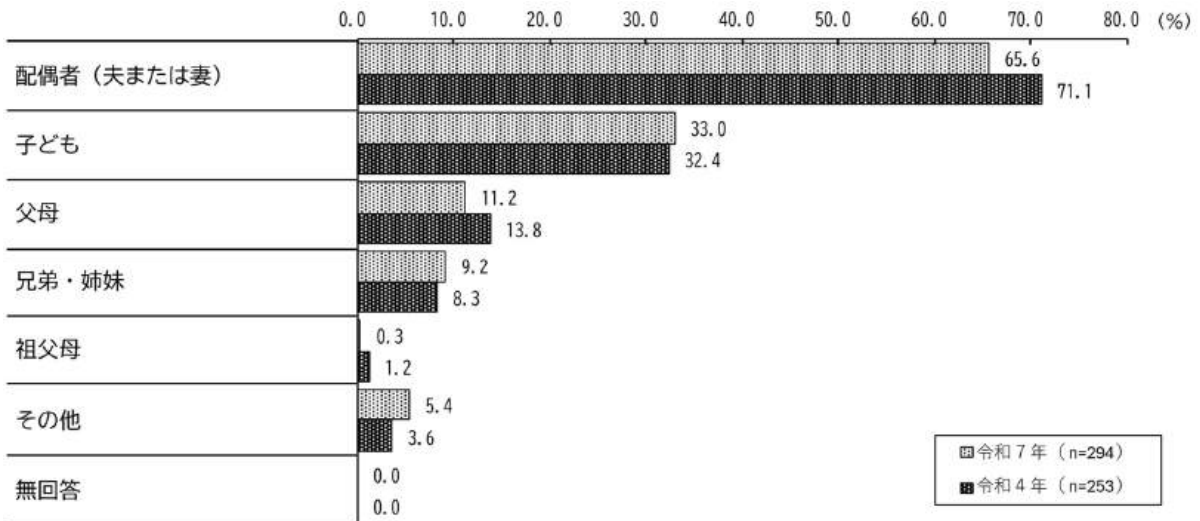


(6) 同居家族

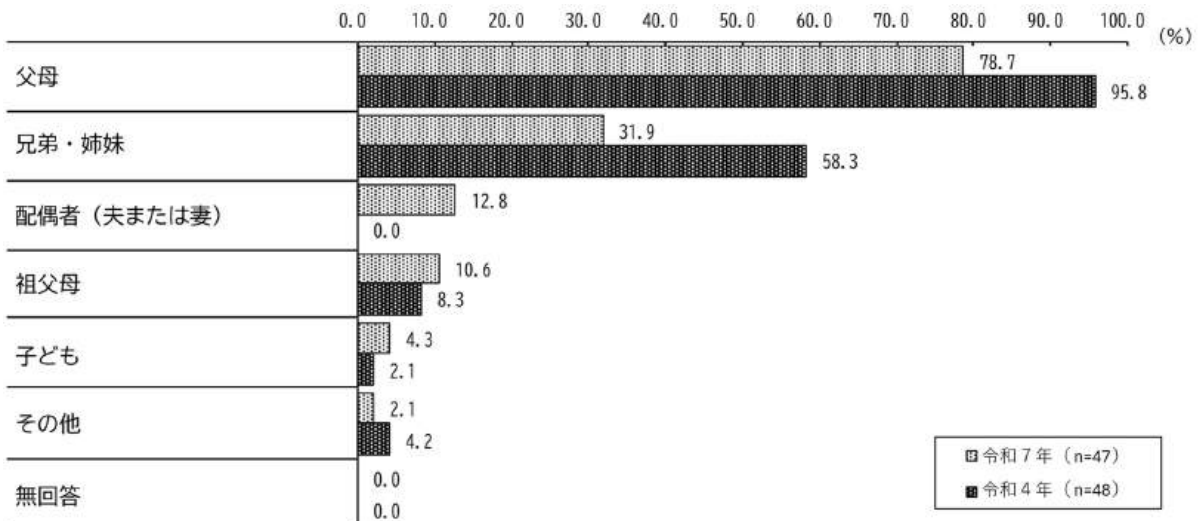
<全体（身体、知的、精神、難病）>



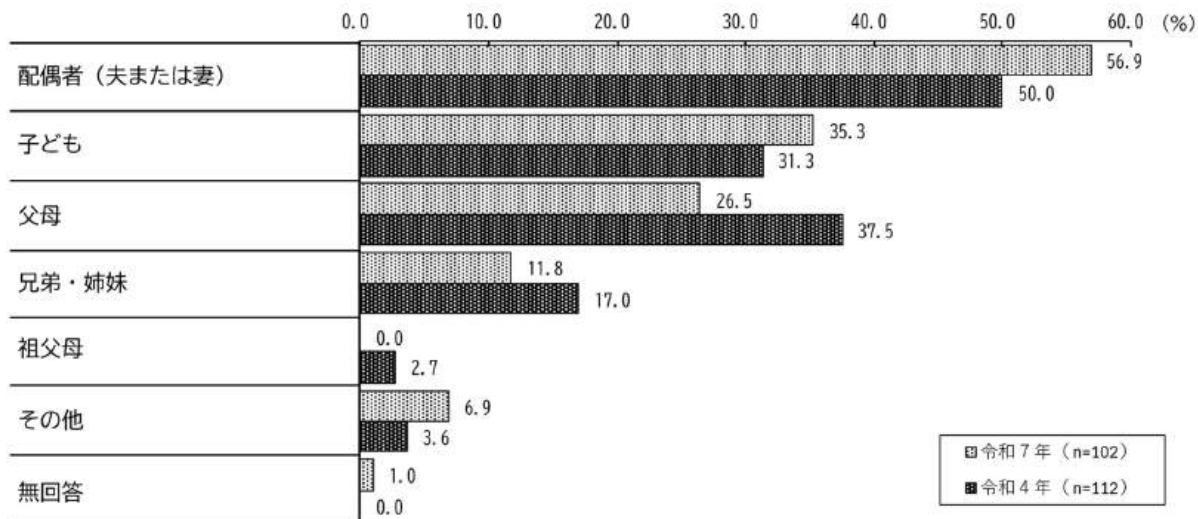
<身体>



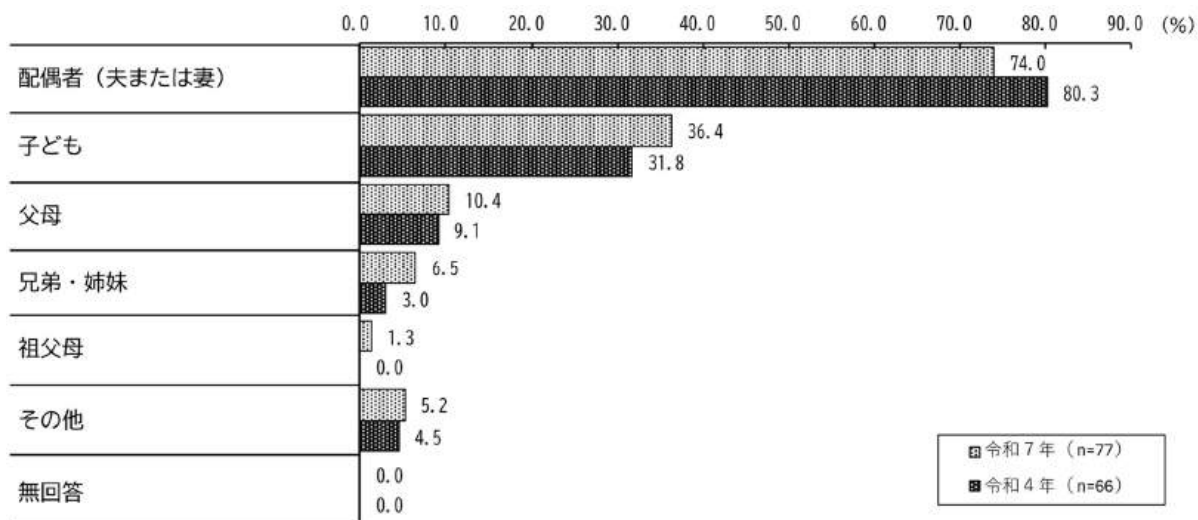
<知的>



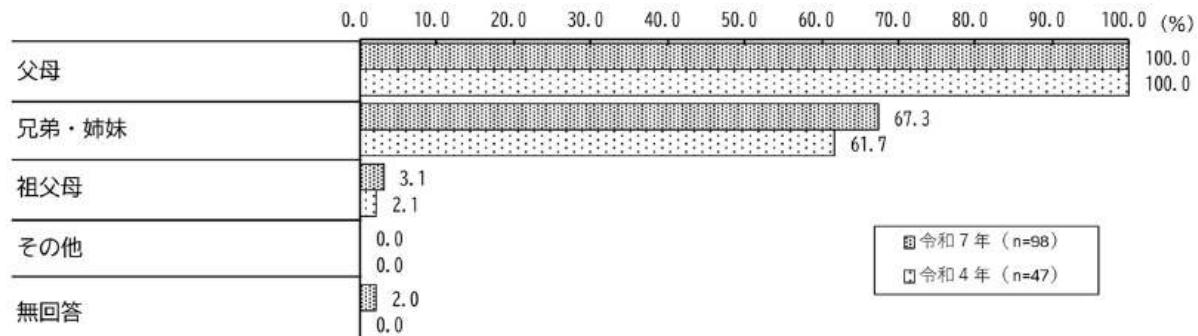
<精神>



<難病>



<障害児>



II 調査結果の分析

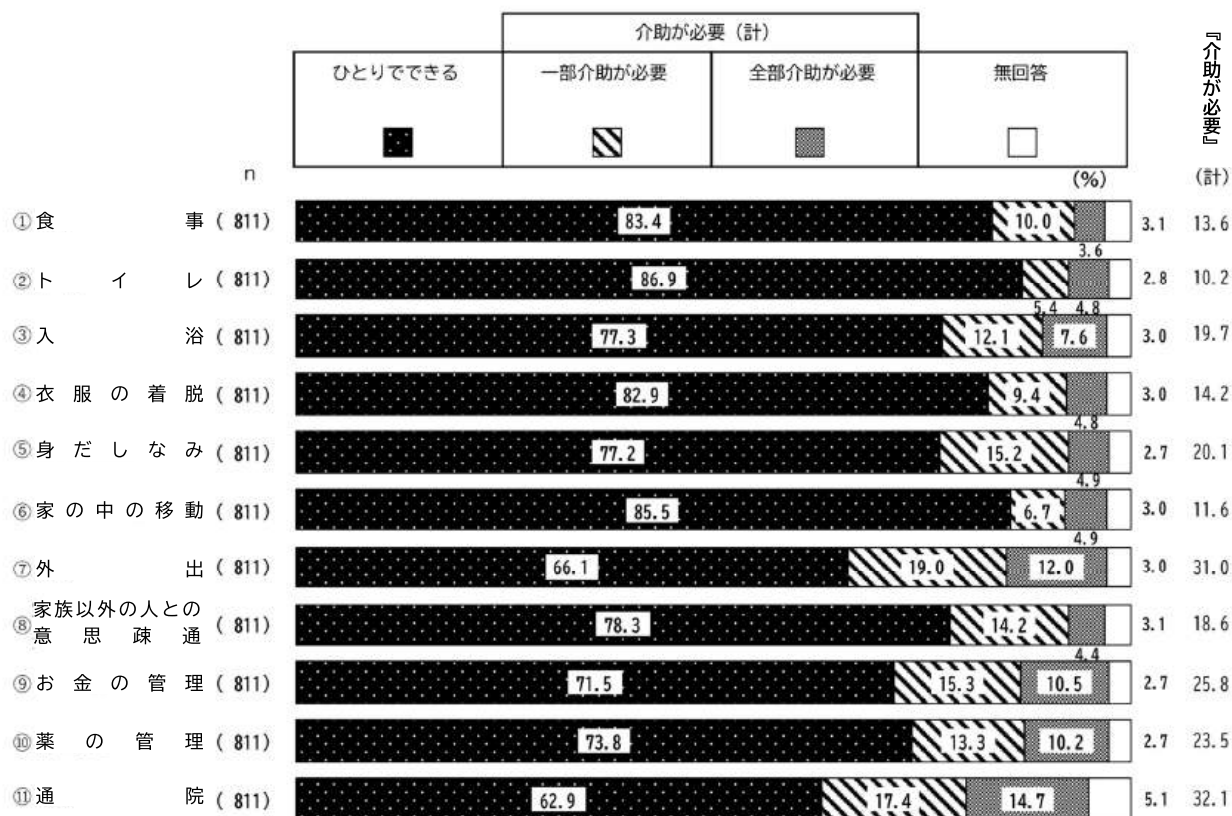
1 日常生活上の手助けの状況について

(1) 日常生活で必要な手助け

問 あなたは日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑪のそれぞれにお答えください。(○はそれぞれ1つ)

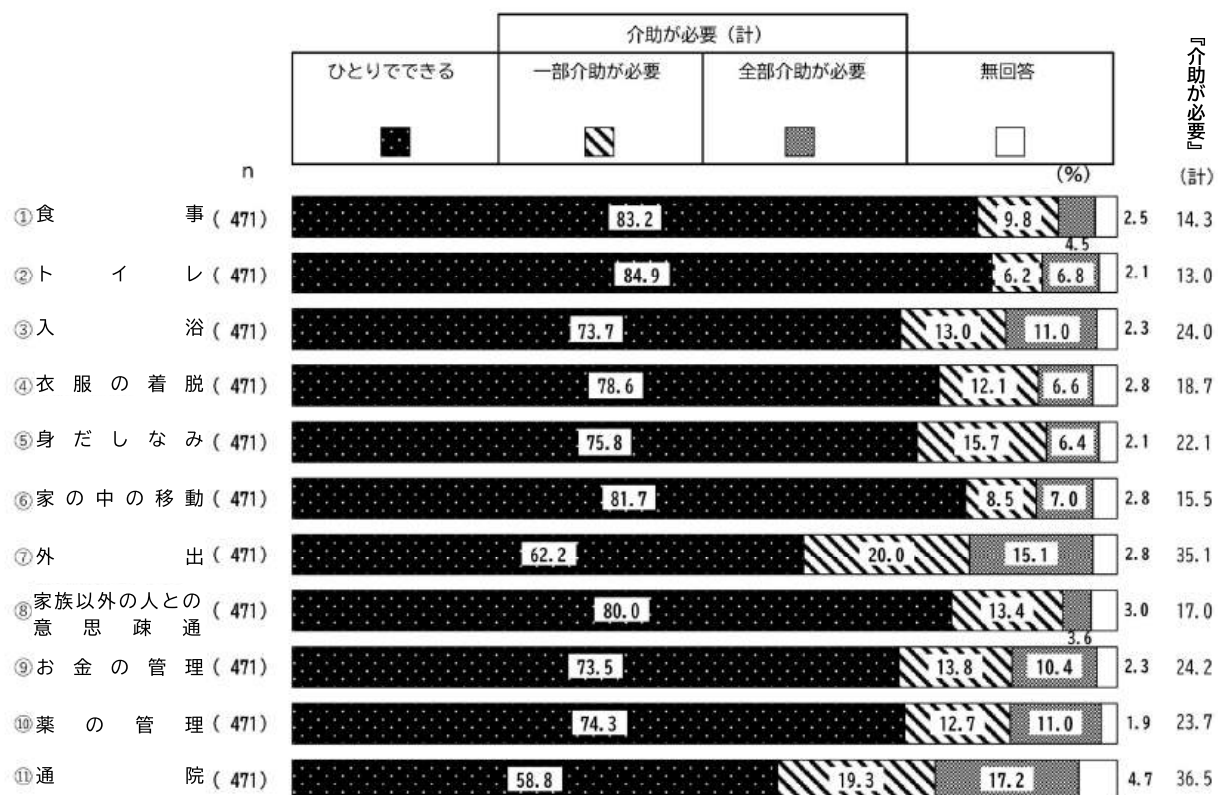
日常生活で必要な手助けについて、全体でみると、「一部介助が必要」と「全部介助が必要」を合わせた『介助が必要(計)』は“通院”で32.1%と最も高く、次いで“外出”で31.0%、“お金の管理”で25.8%などとなっている。

日常生活で必要な手助け <全体(身体、知的、精神、難病)>



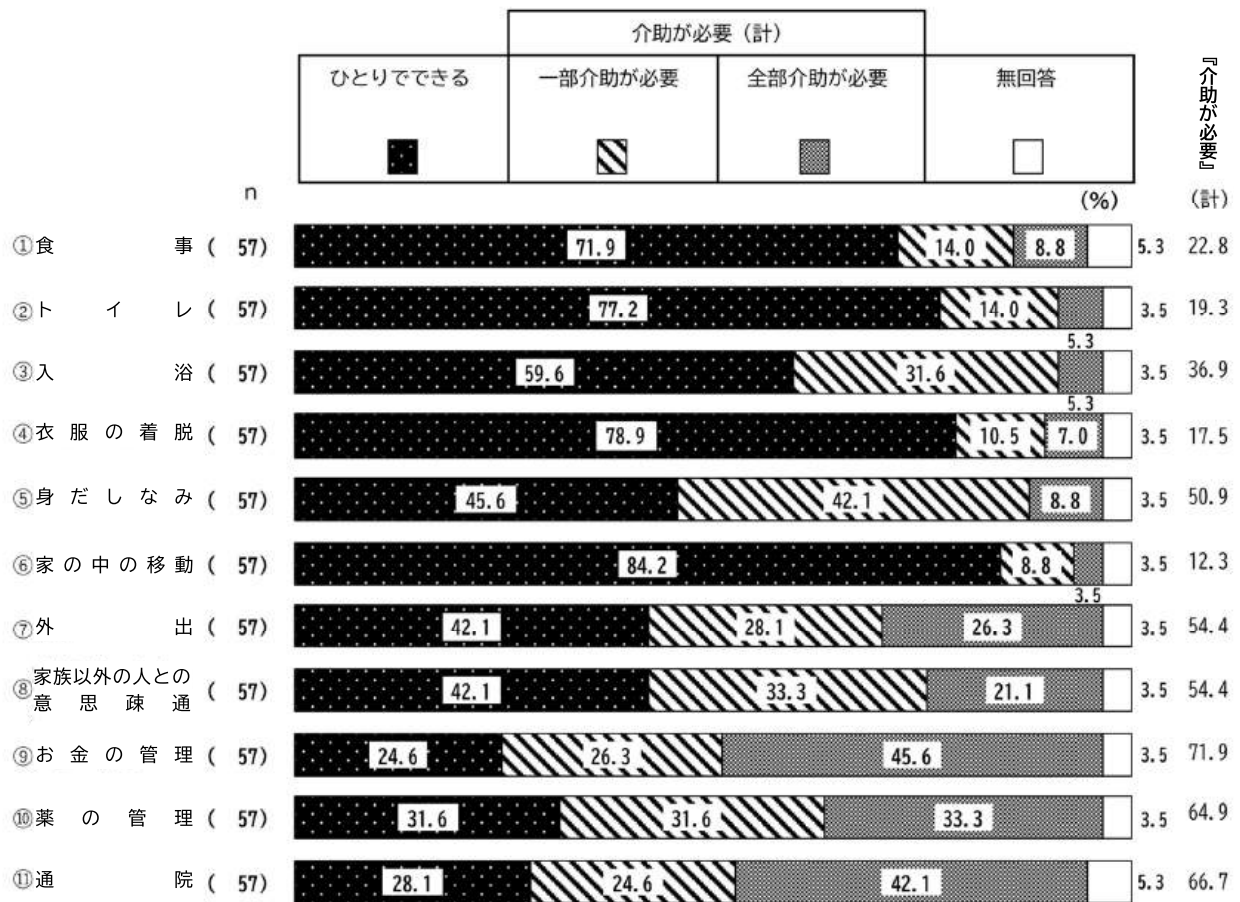
調査票種別でみると、身体では『介助が必要（計）』は“通院”で36.5%と最も高く、次いで“外出”で35.1%、“お金の管理”で24.2%などとなっている。

日常生活に必要な手助け <身体>



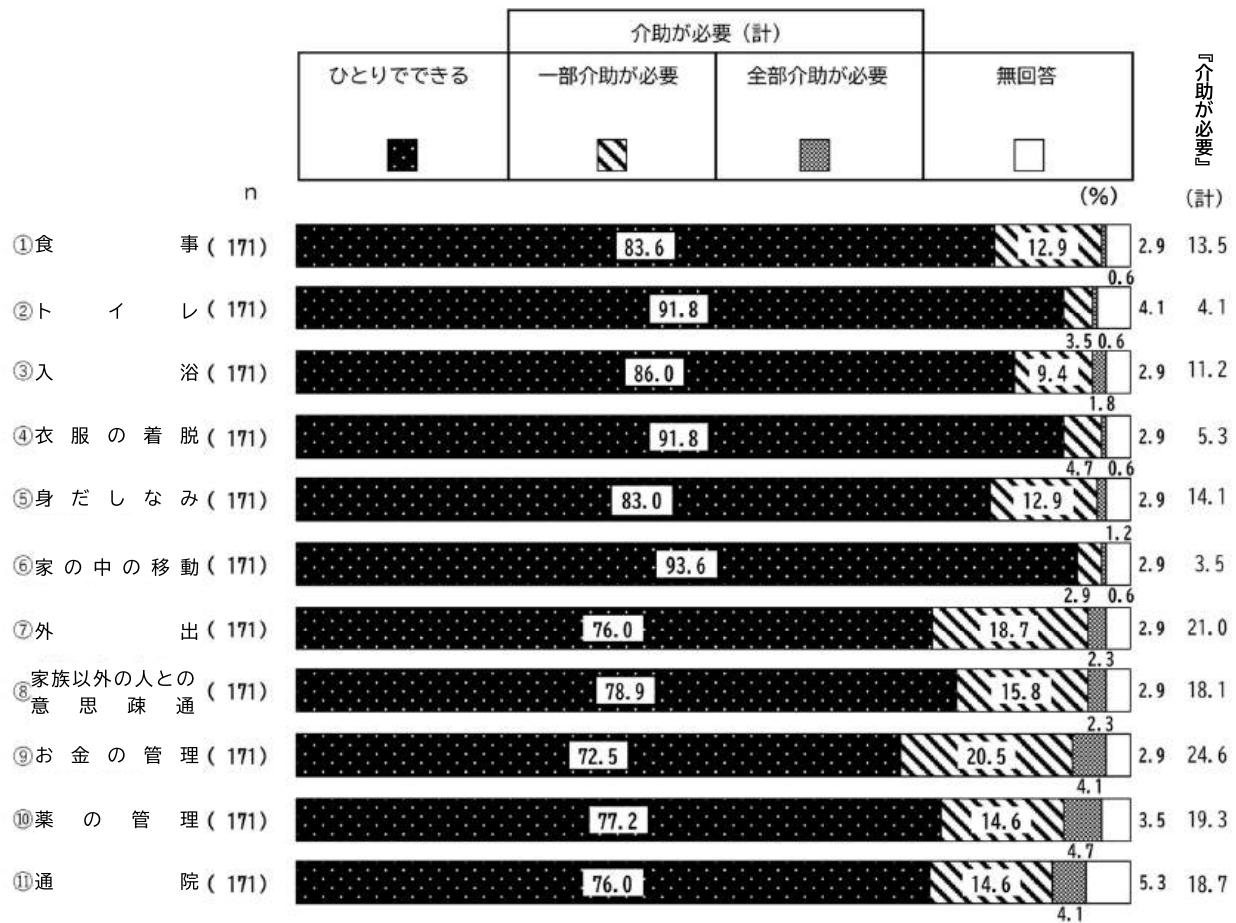
知的では『介助が必要（計）』は“お金の管理”で71.9%と最も高く、次いで“通院”で66.7%、“薬の管理”で64.9%などとなっている。

日常生活に必要な手助け <知的>



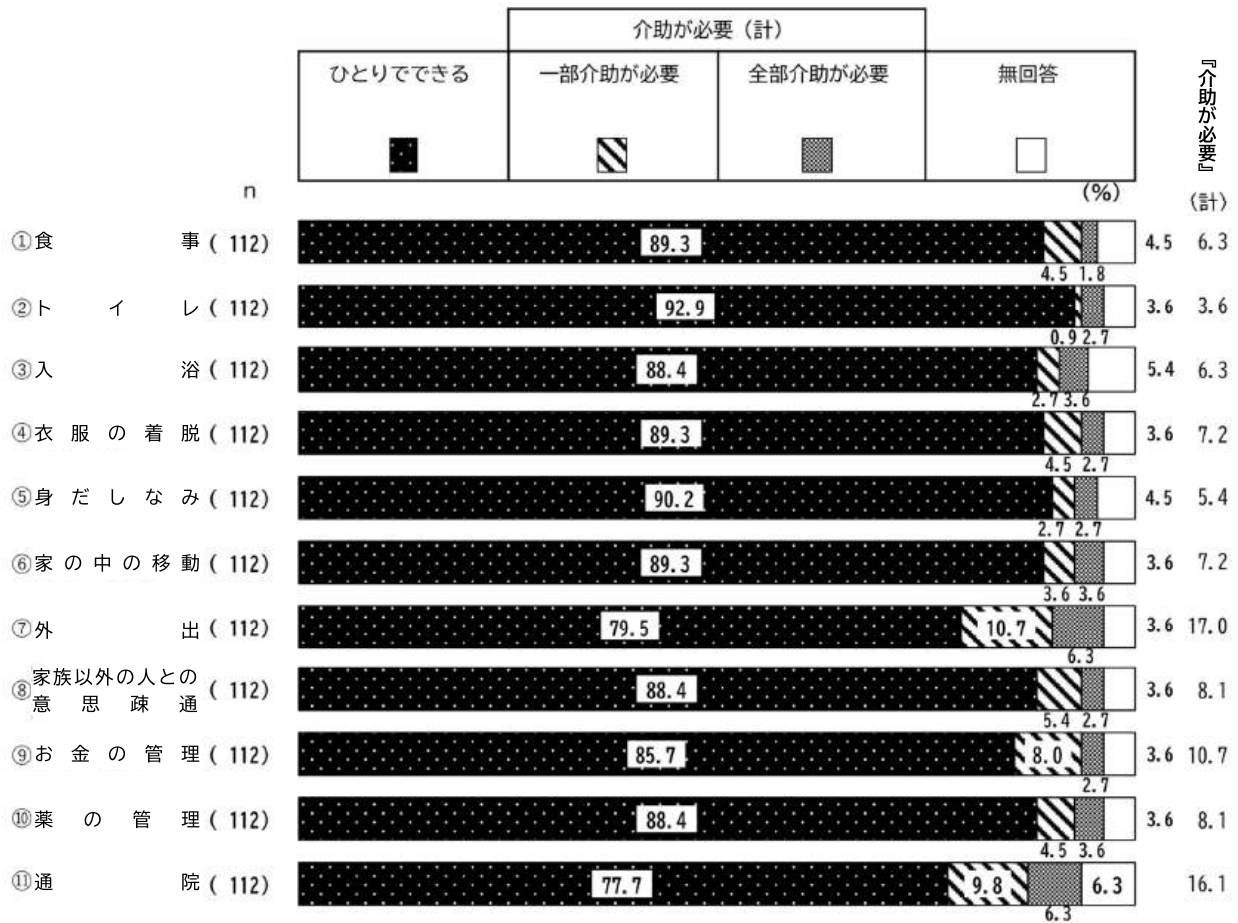
精神では『介助が必要（計）』は“お金の管理”で24.6%と最も高く、次いで“外出”で21.0%、“薬の管理”で19.3%などとなっている。

日常生活に必要な手助け <精神>



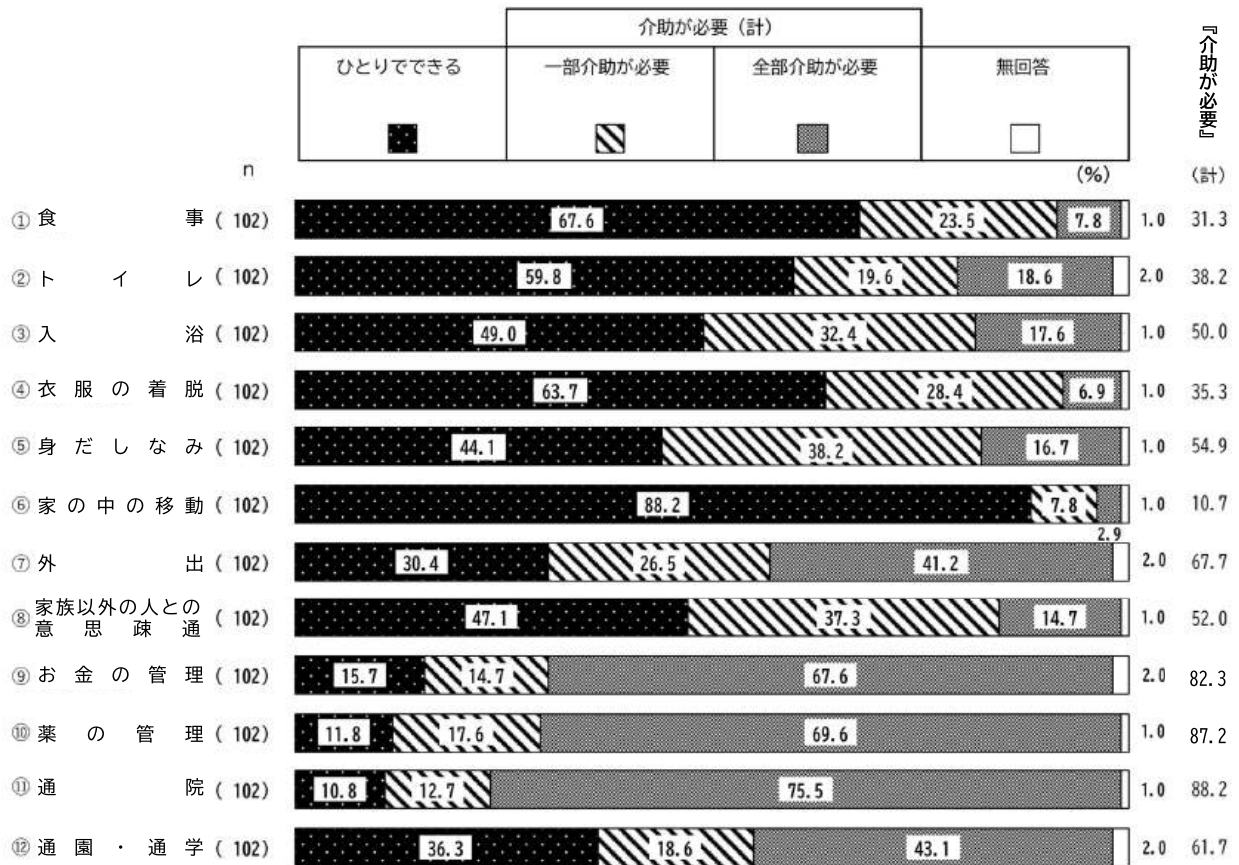
難病では『介助が必要（計）』は“外出”で17.0%と最も高く、次いで“通院”で16.1%、“お金の管理”で10.7%などとなっている。

日常生活に必要な手助け <難病>



障害児の日常生活に必要な手助けをみると、『介助が必要（計）』は“通院”で88.2%と最も高く、次いで“薬の管理”で87.2%、“お金の管理”で82.3%などとなっている。

日常生活に必要な手助け <障害児>



【経年比較】

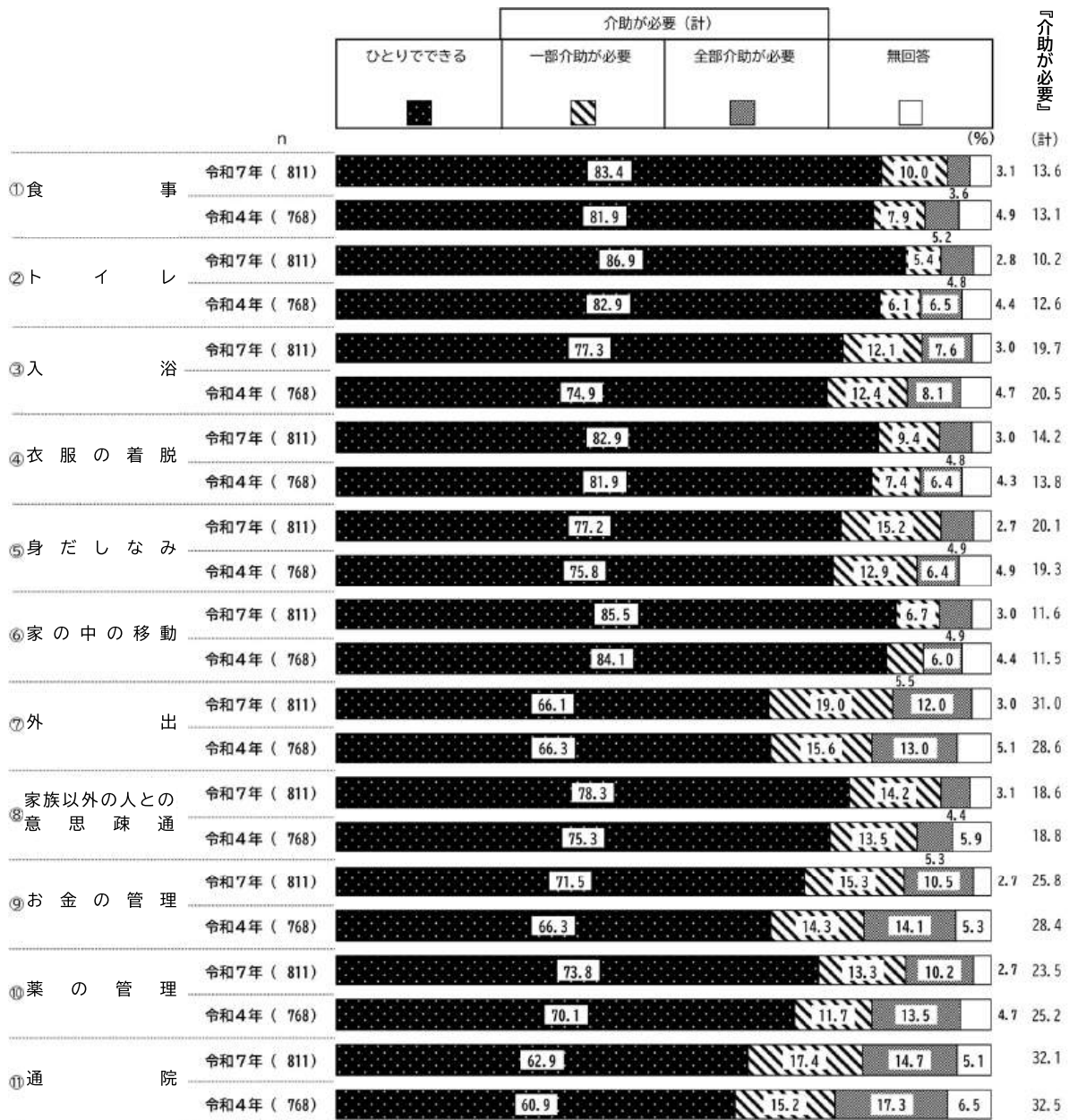
令和4年調査と比較すると、全体では、『介助が必要（計）』は“外出”で2.4ポイント増加し、“トイレ”で2.4ポイント減少している。

調査票種別でみると、『介助が必要（計）』は身体では“外出”で6.8ポイント増加しており、知的では“家族以外の人との意思疎通”と“通院”でそれぞれ13.3ポイント減少している。

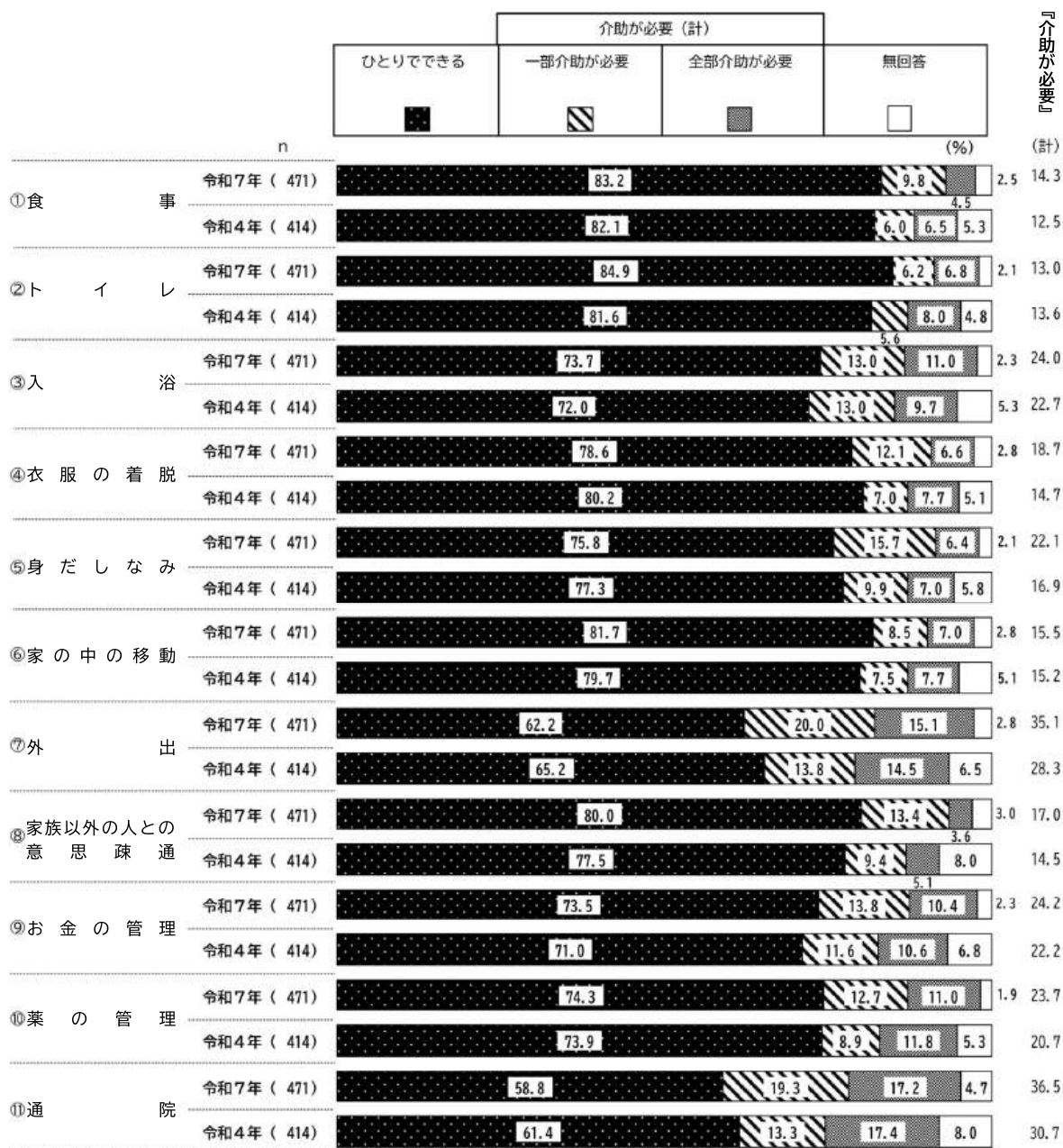
障害児では、『介助が必要（計）』は“通園・通学”で21.3ポイント、“外出”で18.8ポイント、“トイレ”で16.9ポイントそれぞれ増加している。

『介助が必要（計）』について、知的ではほぼすべての項目、難病ではすべての項目で減少傾向にあった一方、障害児はすべての項目で増加していることから、障害児の介助にかかるサポート体制の強化が求められる。

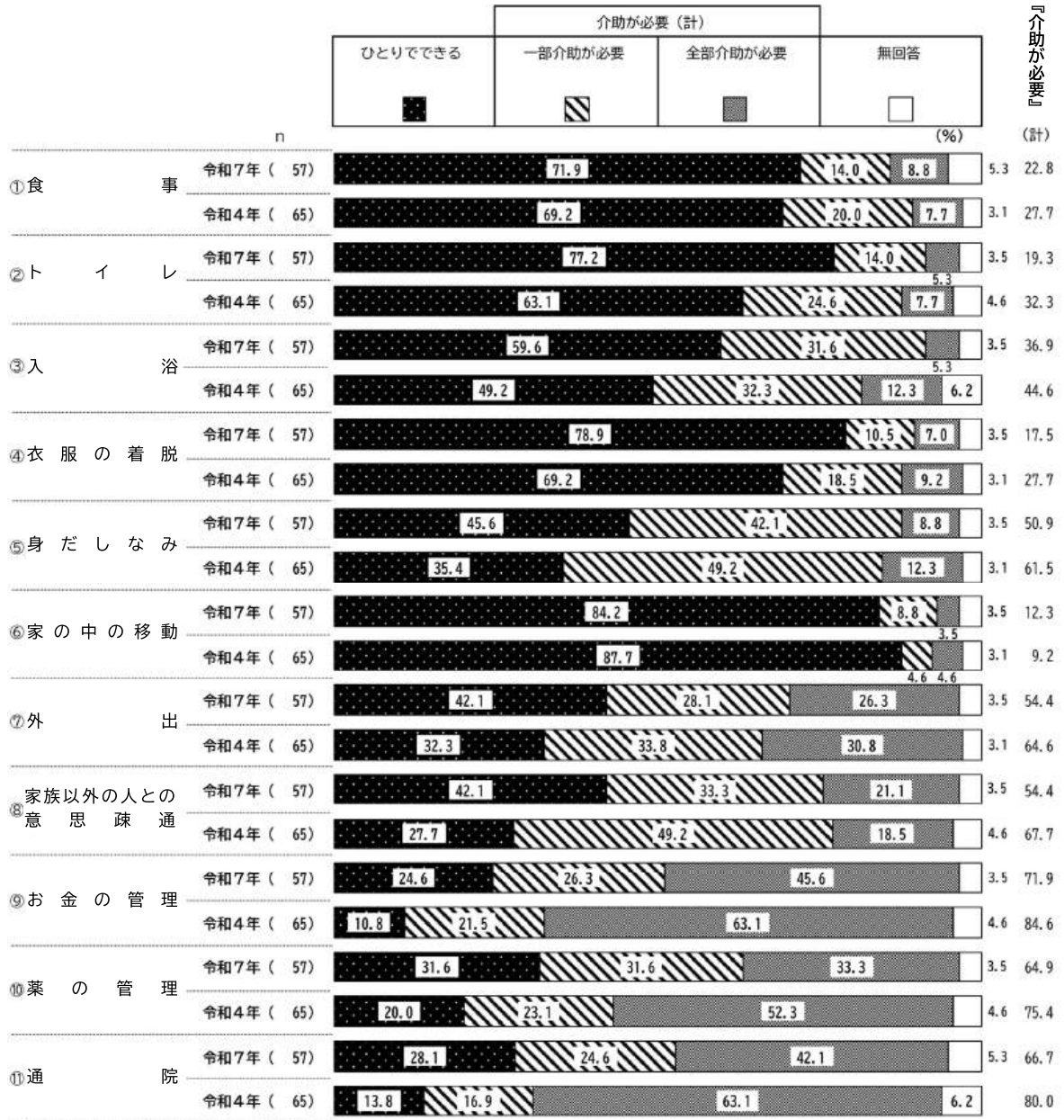
日常生活に必要な手助け（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



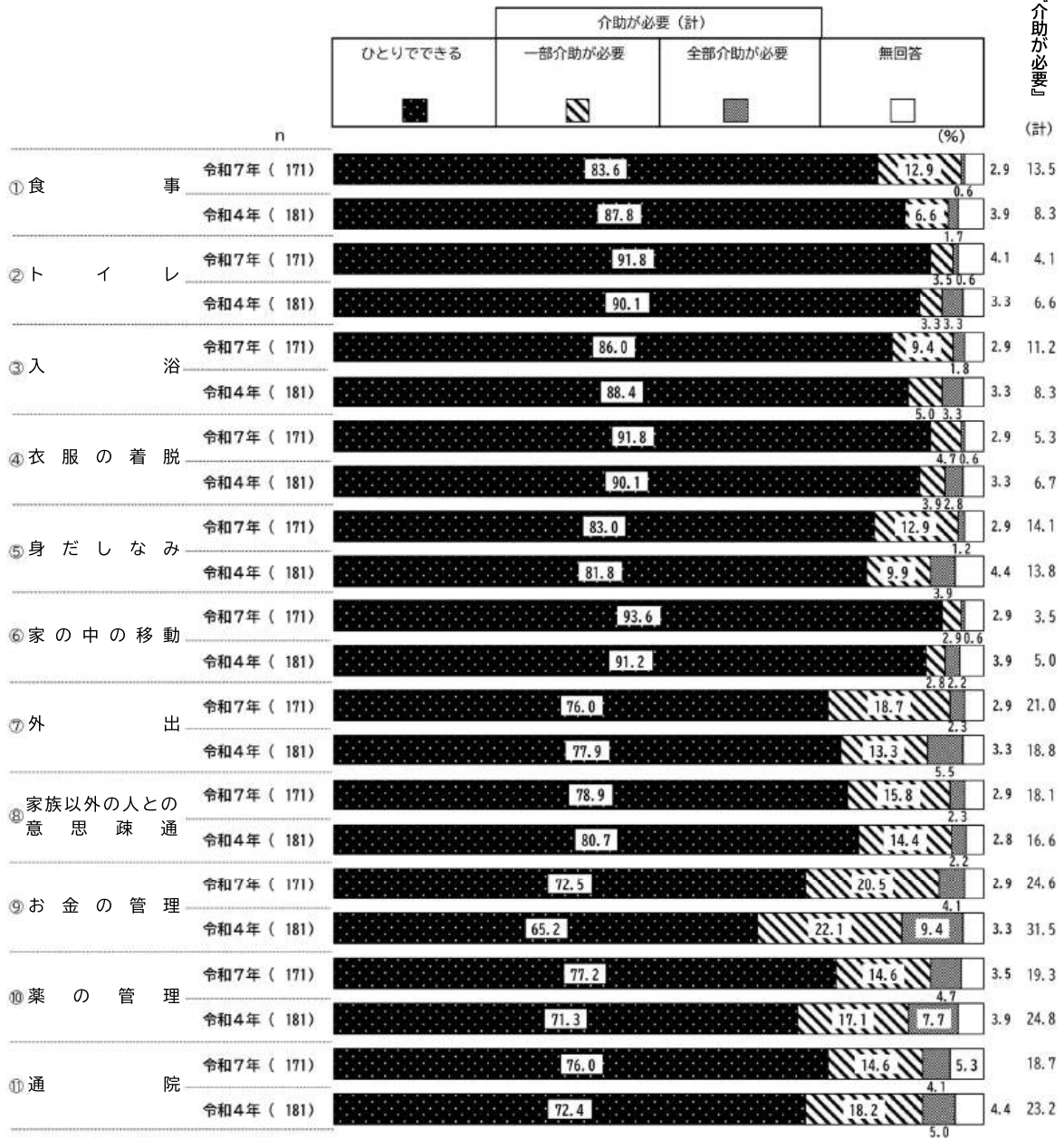
日常生活に必要な手助け（経年比較）＜身体＞



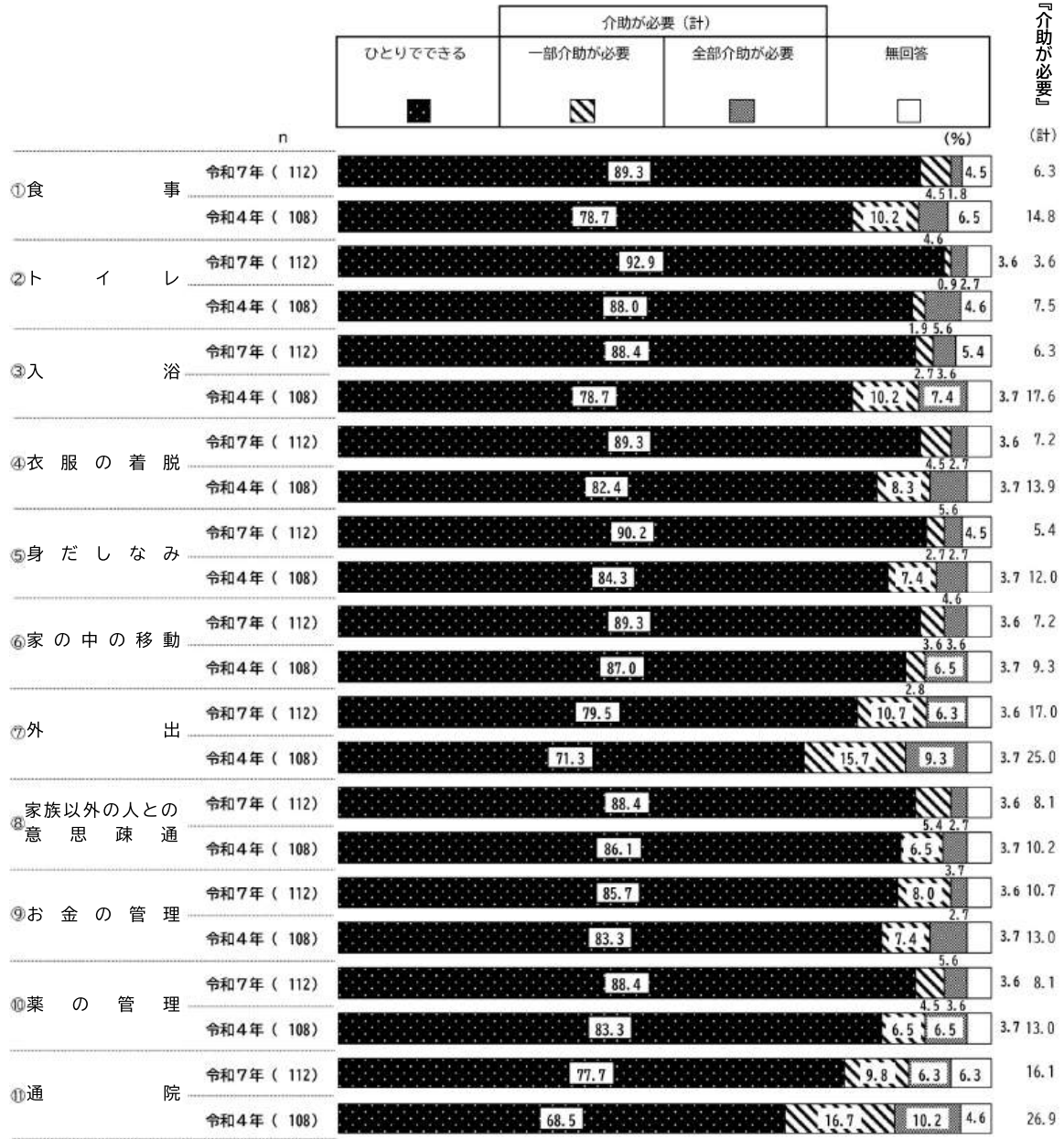
日常生活に必要な手助け（経年比較）＜知的＞



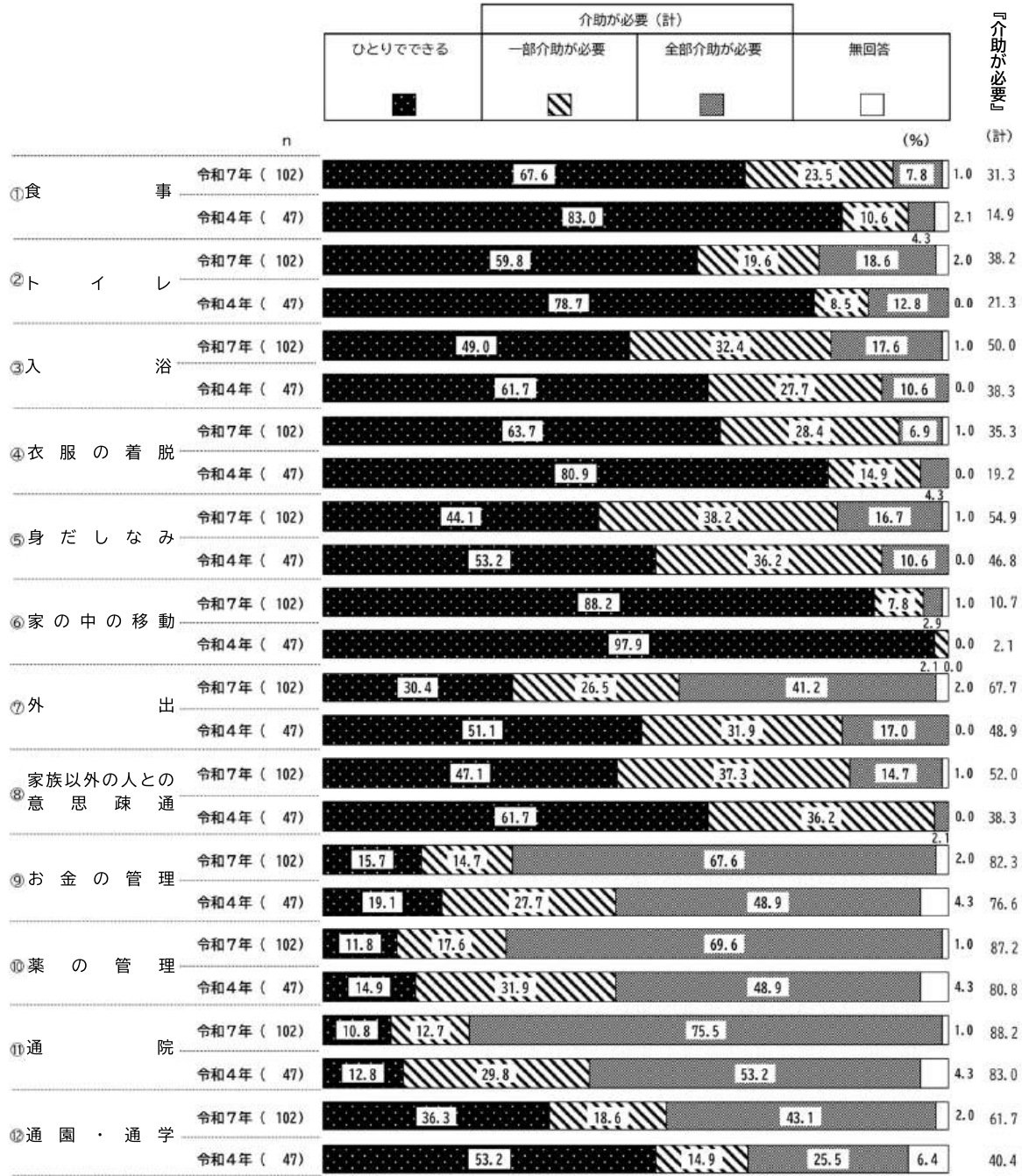
日常生活に必要な手助け（経年比較）＜精神＞



日常生活に必要な手助け（経年比較）＜難病＞



日常生活に必要な手助け（経年比較）＜障害児＞



(2) 主な介助者

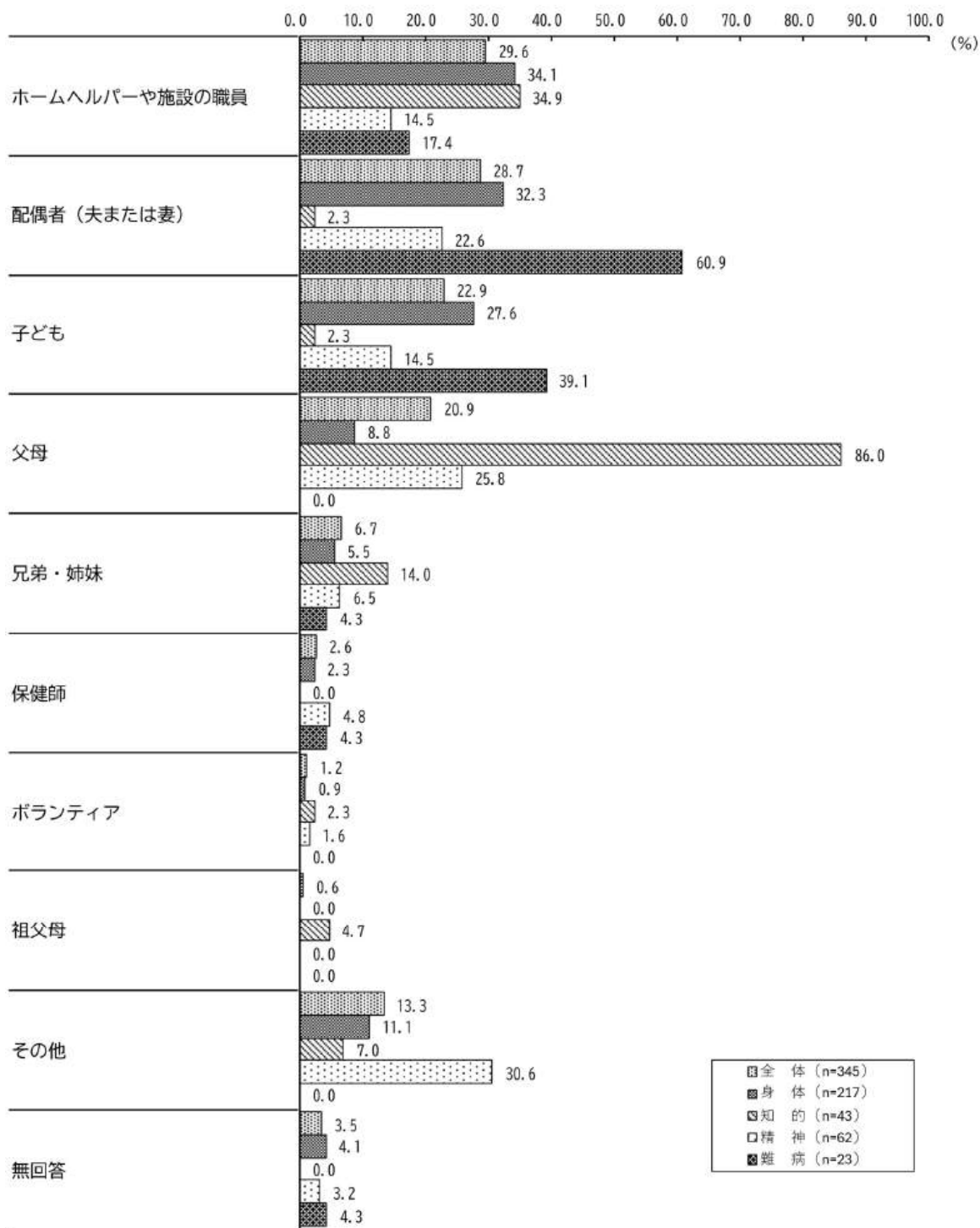
(1つでも「一部介助が必要」または「全部介助が必要」と答えた方にお聞きします。)

問 あなたを介助している方は主にどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

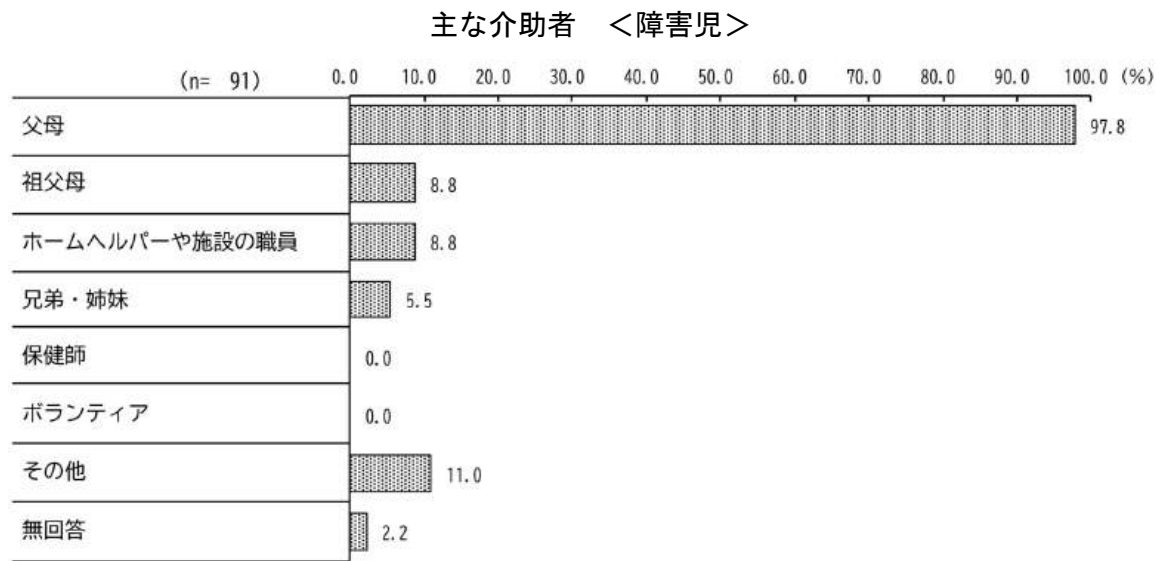
主な介助者について、全体で見ると、「ホームヘルパーや施設の職員」が29.6%で最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」が28.7%、「子ども」が22.9%などとなっている。

調査票種別で見ると、身体では「ホームヘルパーや施設の職員」、知的と精神では「父母」、難病では「配偶者（夫または妻）」の割合が最も高くなっている。

主な介助者 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の主な介助者をみると、「父母」が97.8%、「祖父母」と「ホームヘルパーや施設の職員」が8.8%などとなっている。



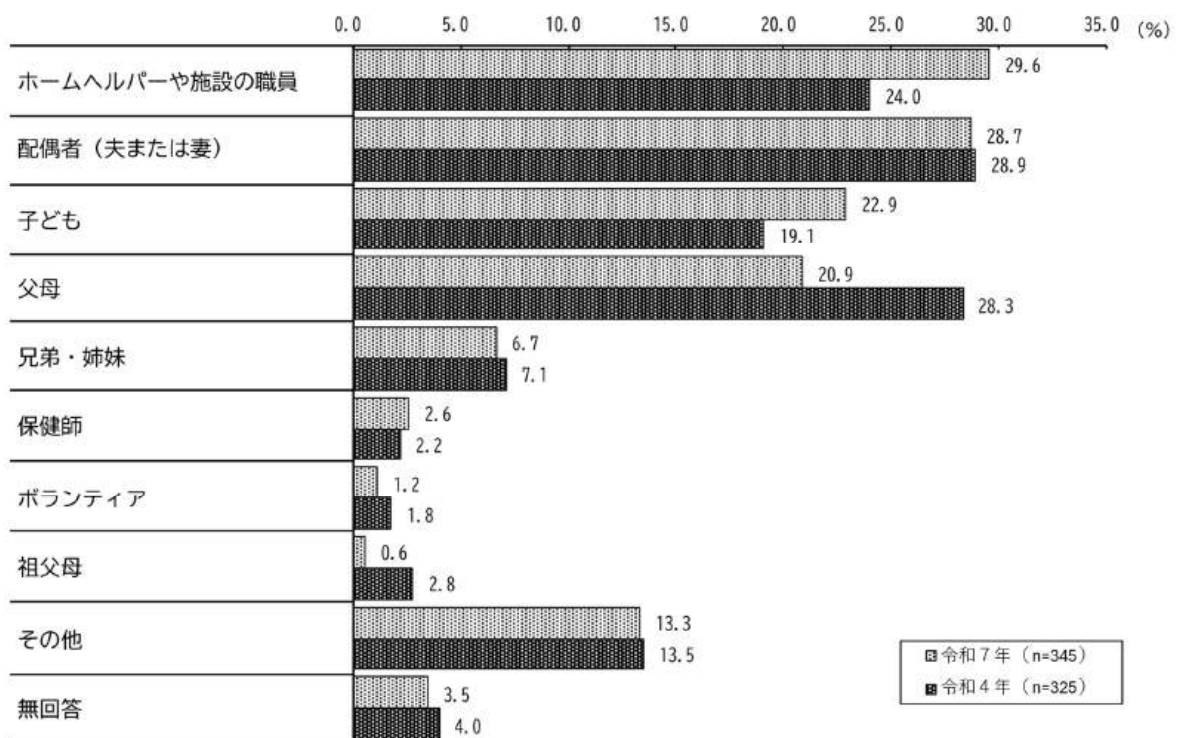
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、「ホームヘルパーや施設の職員」が5.6ポイント増加し、「父母」が7.4ポイント減少している。

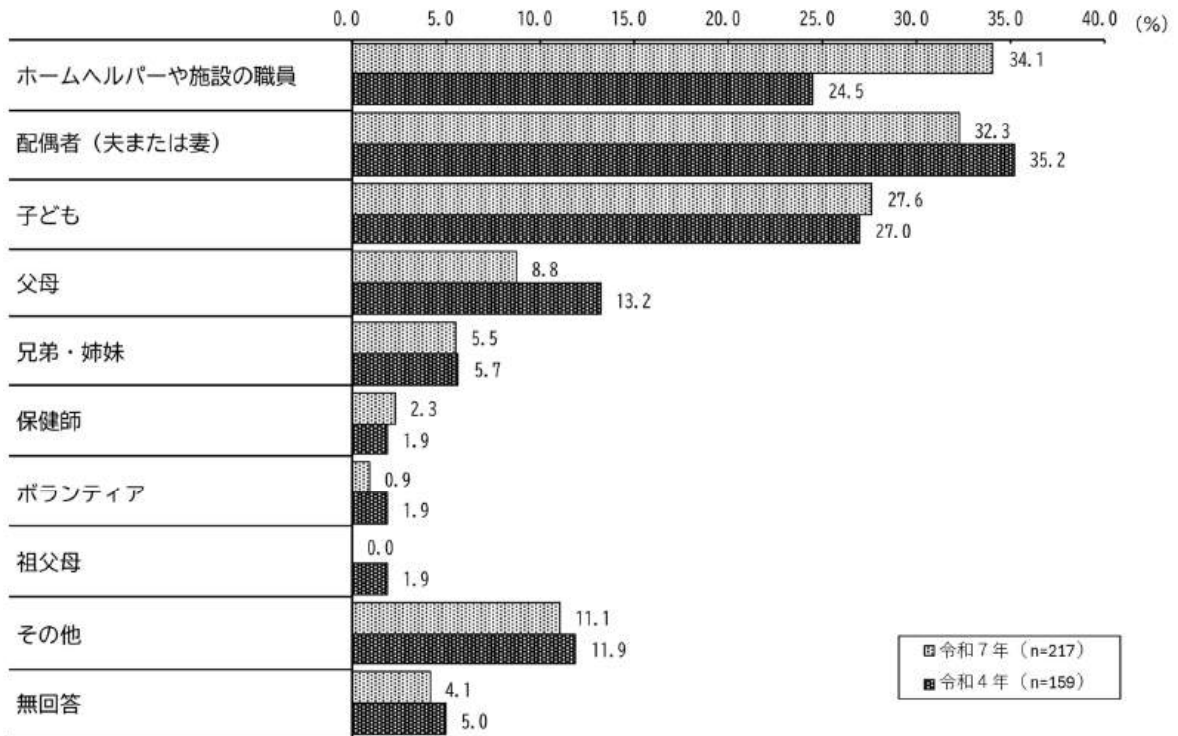
調査票種別で見ると、身体では「ホームヘルパーや施設の職員」が9.6ポイント増加し、「父母」が4.4ポイント減少している。また、難病では「ホームヘルパーや施設の職員」が14.8ポイント、「配偶者（夫または妻）」が6.4ポイントそれぞれ減少している。

主な介助者は、令和4年度調査よりも外部に委託する方が増えた傾向にあるものの、依然として知的・精神・難病では家族の介助が最も高い。家族への負担が高いことがわかるため、第三者における支援体制の強化、介助者の定期的なメンタルケア等が求められる。

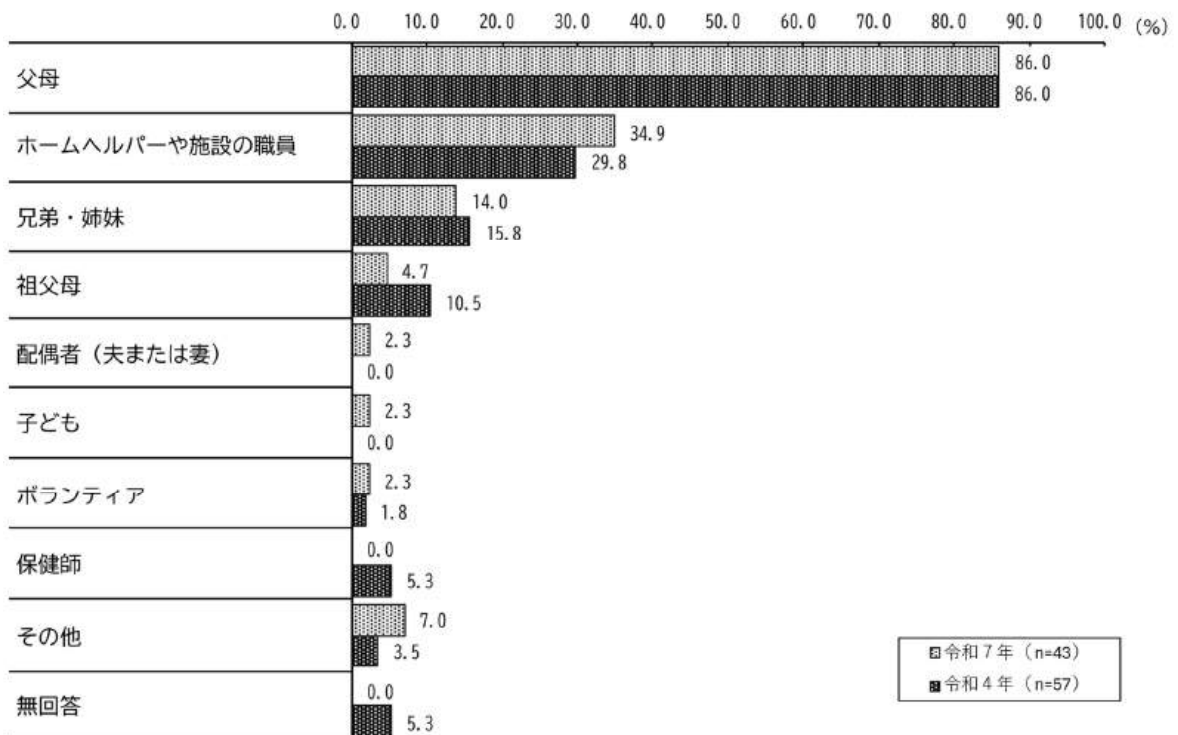
主な介助者（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



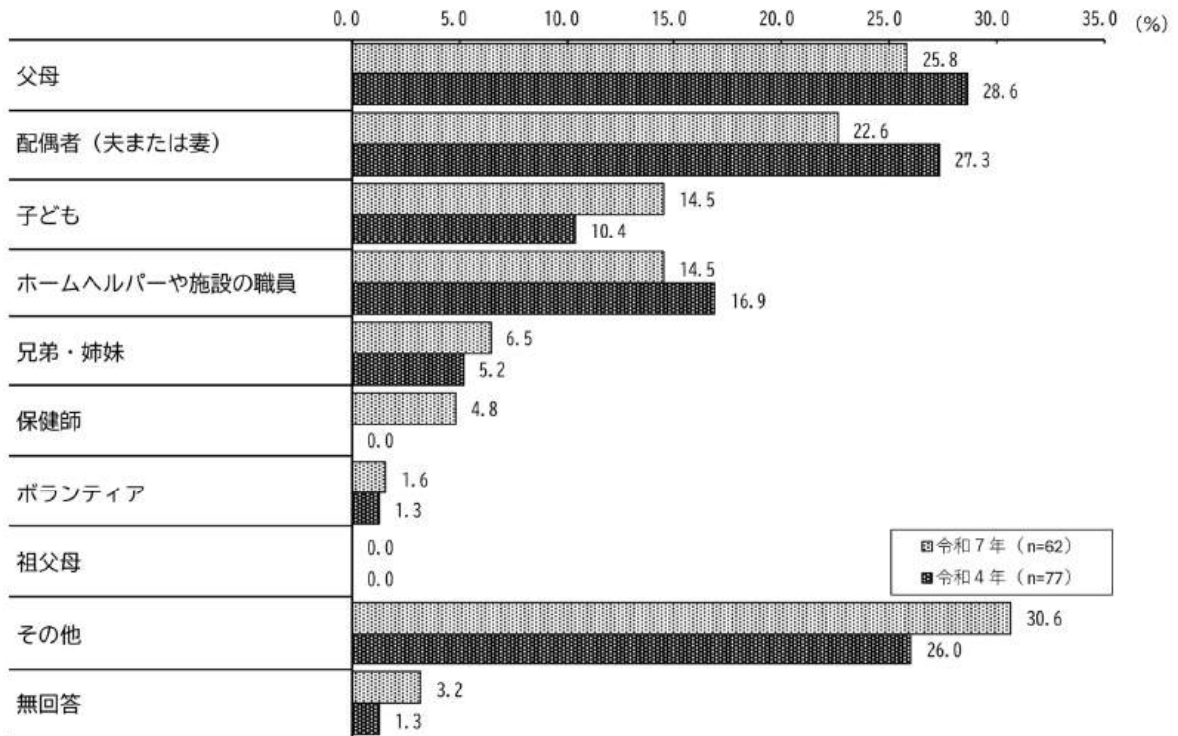
主な介助者（経年比較）＜身体＞



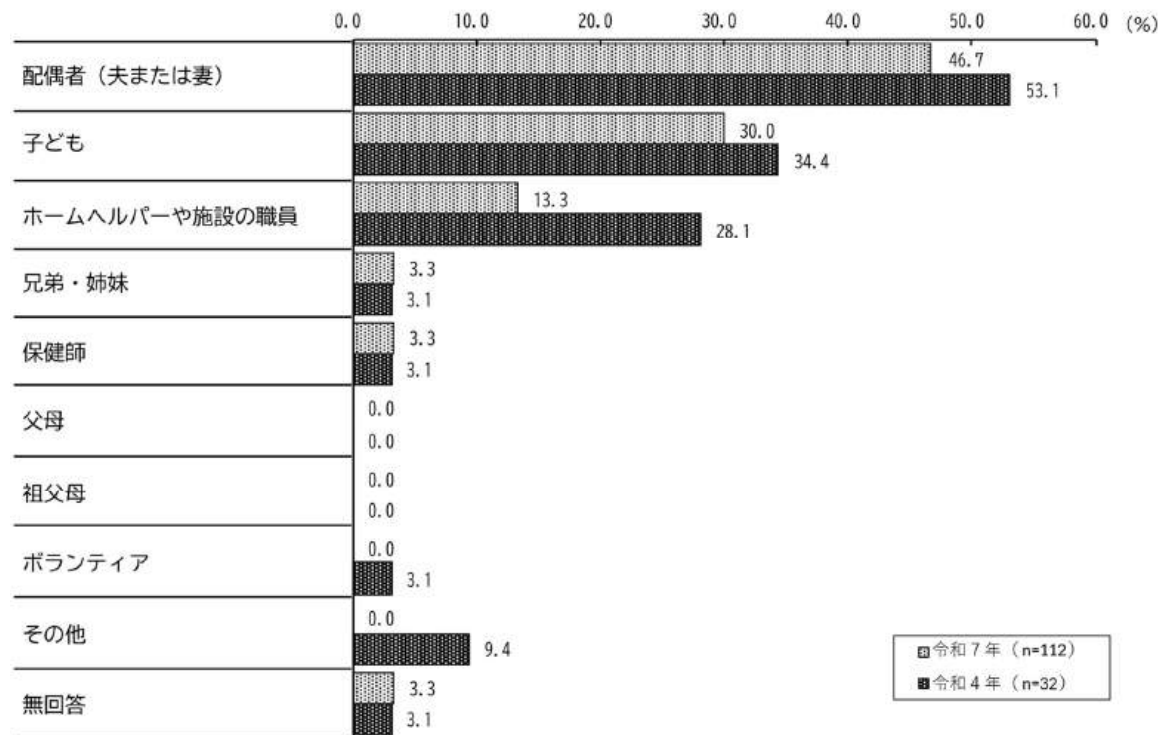
主な介助者（経年比較）＜知的＞



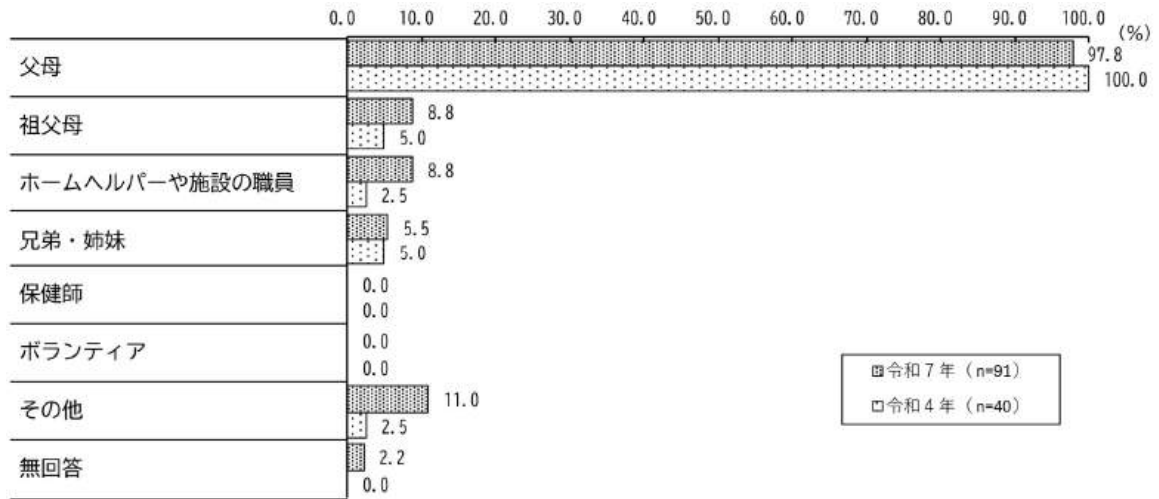
主な介助者 (経年比較) <精神>



主な介助者 (経年比較) <難病>



主な介助者 (経年比較) <障害児>



(3) 主な介助者の性別と年齢

(主な介助者として、身体、知的、精神、難病調査では「父母」「祖父母」「兄弟・姉妹」「配偶者(夫または妻)」「子ども」、障害児調査では「父母」「祖父母」「兄弟・姉妹」と答えた方にお聞きします。)

問 介助の中心となっている方の性別に○をつけ、令和7年7月1日現在の満年齢をご記入下さい。
(性別の○は1つだけ、年齢は数字を記入)

主な介助者の性別について、全体で見ると、「男性」が24.2%、「女性」が72.2%となっている。

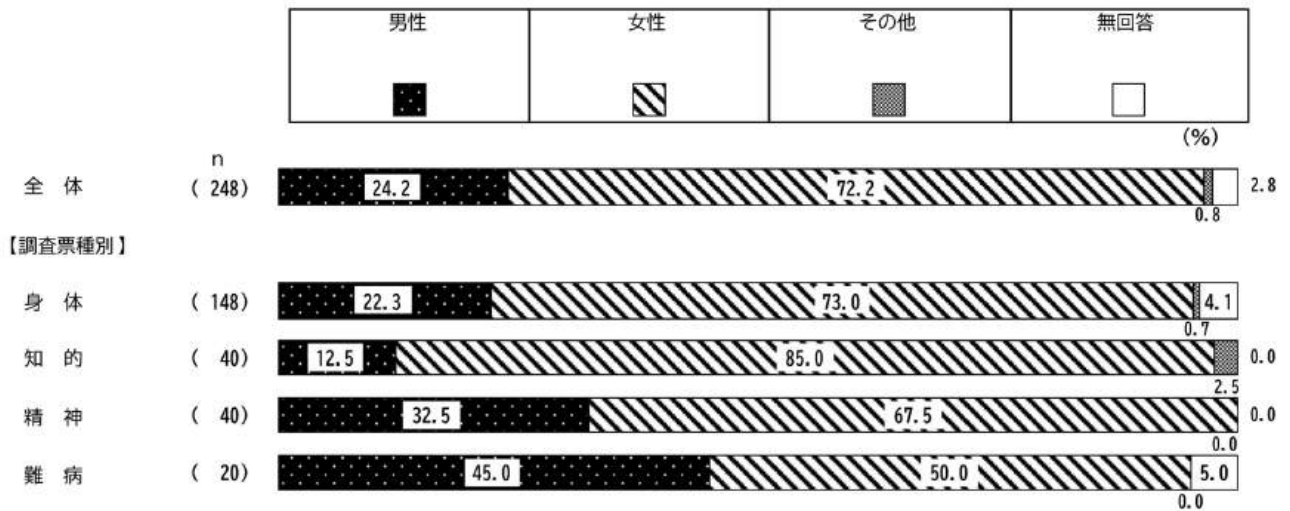
調査票種別で見ると、難病では「男性」が45.0%、知的では「女性」が85.0%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

年齢について、全体で見ると、「40～59歳」が30.2%で最も高く、次いで「75～79歳」が13.3%などとなっており、『65歳以上(計)』は43.2%となっている。

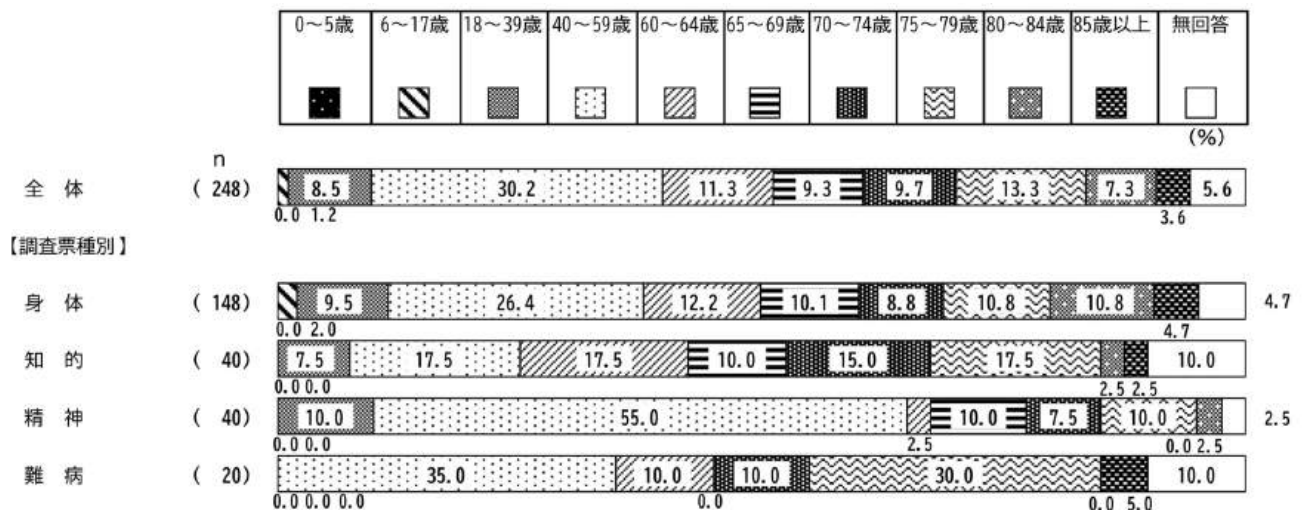
調査票種別で見ると、精神で「40～59歳」が55.0%、知的で『65歳以上(計)』が47.5%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

主な介助者の性別と年齢 <全体(身体、知的、精神、難病)>

① 性別



② 年齢



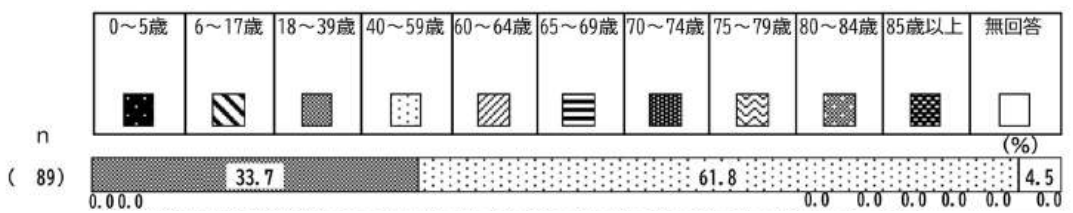
障害児の主な介助者の性別をみると、「男性」が12.4%、「女性」は87.6%となっている。
 年齢をみると、「40～59歳」が61.8%で最も高く、次いで「18～39歳」が33.7%となっている。

主な介助者の性別と年齢 <障害児>

① 性別



② 年齢



【経年比較】

主な介助者の性別を令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられない。調査票種別でみると、精神では、「女性」が17.5ポイント増加し、「男性」が7.9ポイント減少している。

障害児では、「女性」が2.6ポイント増加している。

主な介助者の年齢を令和4年調査と比較すると、全体では、「40歳代」が5.3ポイント増加し、「65歳以上」が3.5ポイント減少している。

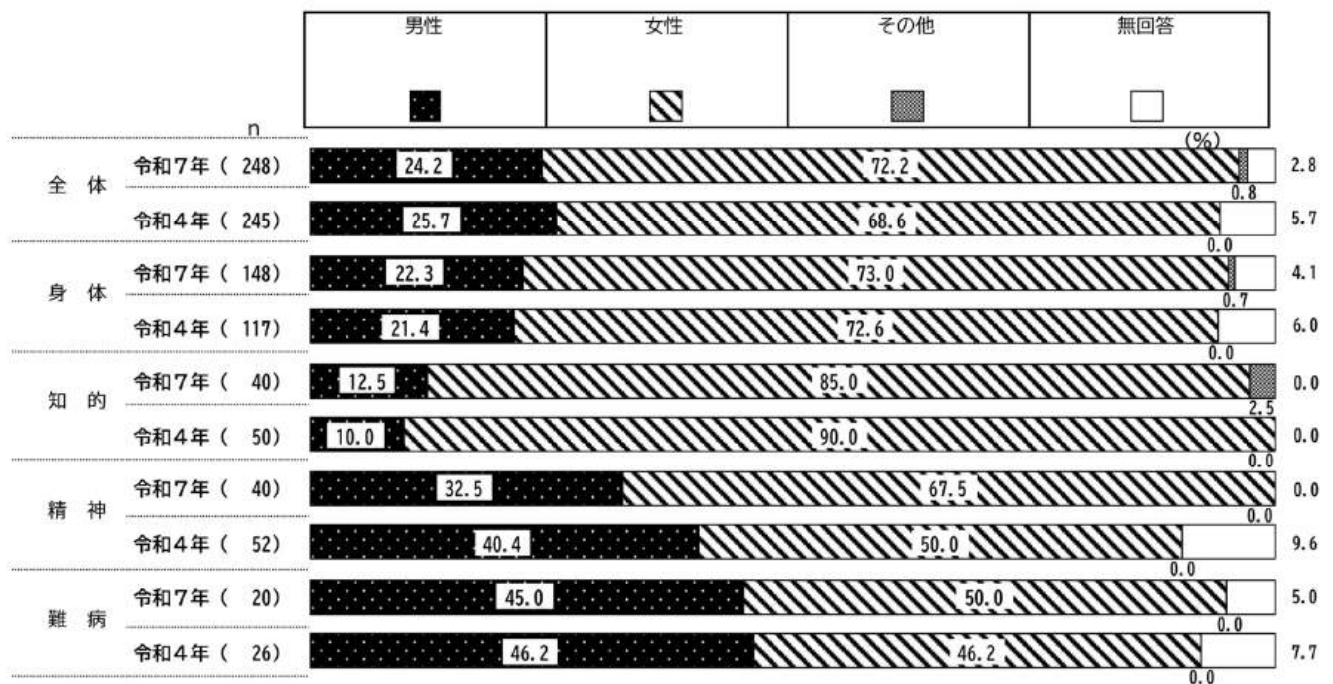
調査票種別でみると、知的では「65歳以上」が19.2ポイント増加し、「50歳代」が23.8ポイント減少している。身体では「65歳以上」が21.6ポイント増加している。精神では「40歳代」が27.7ポイント増加し、「65歳以上」が12.9ポイント減少している。

障害児では、「30歳代」が16.8ポイント増加し、「50歳代」が9.6ポイント減少している。

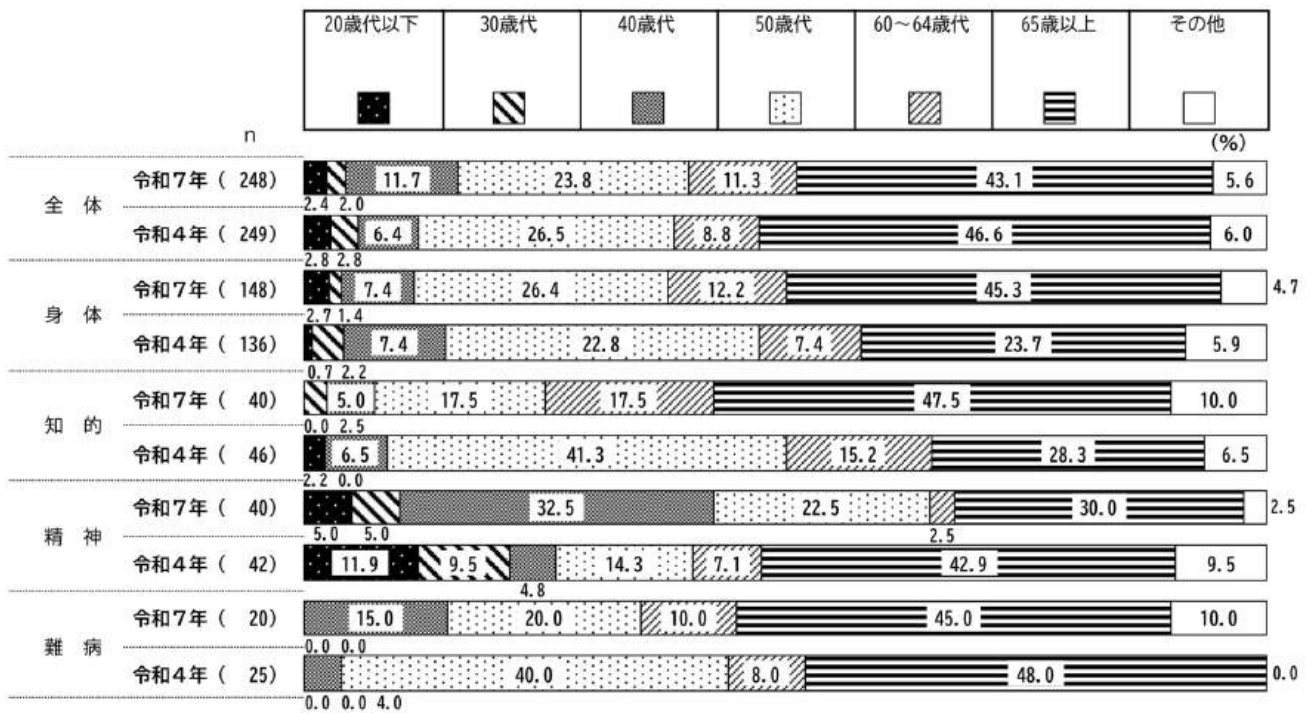
身内の介助者の性別は、全体・障害児ともに令和4年調査と変わらず女性に負担が偏っている状況が続いている。年齢において全体では、令和4年調査に引き続き、60歳以上の介助の割合が半数以上を占めていることから、高齢介護世帯への定期的な見守りや医療・介護サービスの周知や導入へのサポートが求められる。障害児では、30歳代と40歳代を合わせた介助の割合が8割以上を占めていることから、働く世代に向けた第三者における支援体制の強化等も併せて求められる。

主な介助者の性別と年齢（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

① 性別

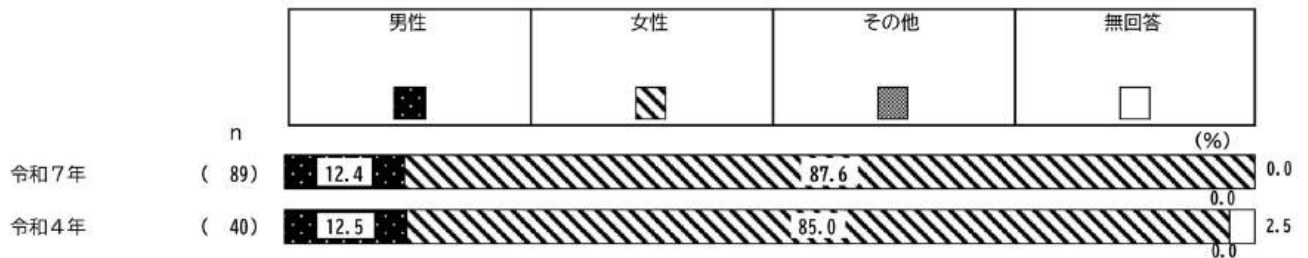


② 年齢

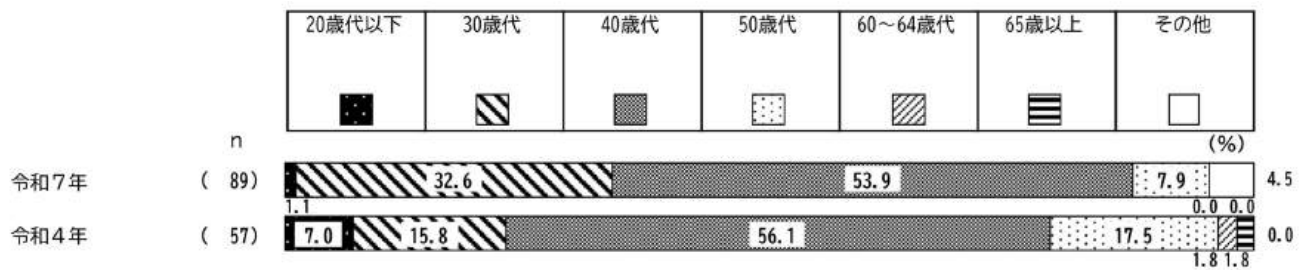


主な介助者の性別と年齢（経年比較）＜障害児＞

① 性別



② 年齢



(4) 主な介助者の健康状態

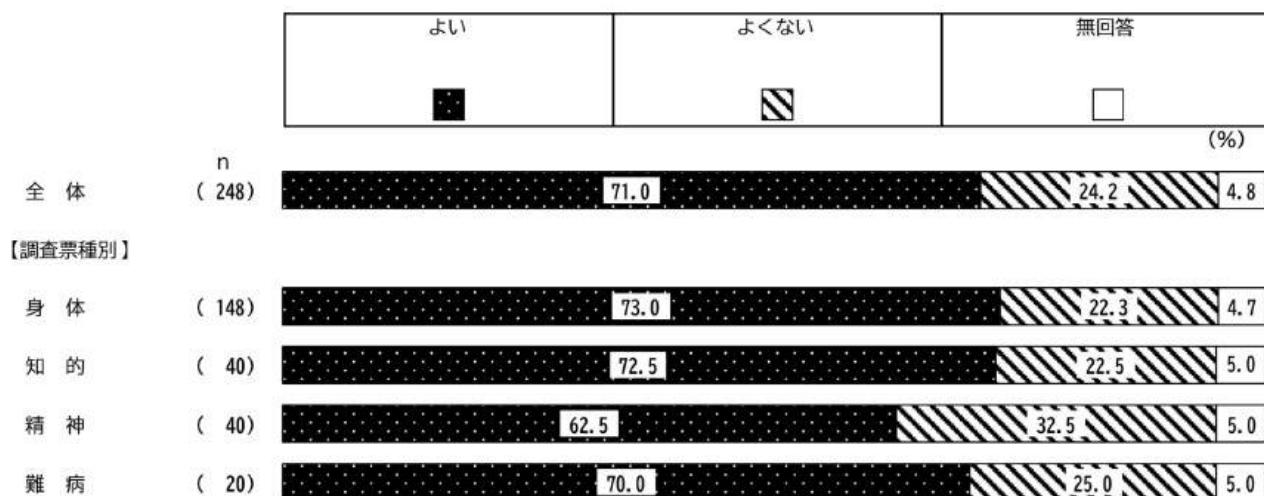
(主な介助者として、身体、知的、精神、難病調査では「父母」「祖父母」「兄弟・姉妹」「配偶者(夫または妻)」「子ども」、障害児調査では「父母」「祖父母」「兄弟・姉妹」と答えた方にお聞きします。)

問 介助の中心となっている方の健康状態はいかがですか。(1つだけに○)

主な介助者の健康状態について、全体でみると、「よい」が71.0%、「よくない」は24.2%となっている。

調査票種別でみると、精神では「よくない」が32.5%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

主な介助者の健康状態 <全体(身体、知的、精神、難病)>



障害児の主な介助者の健康状態をみると、「よい」が86.5%、「よくない」は13.5%となっている。

主な介助者の健康状態 <障害児>



【経年比較】

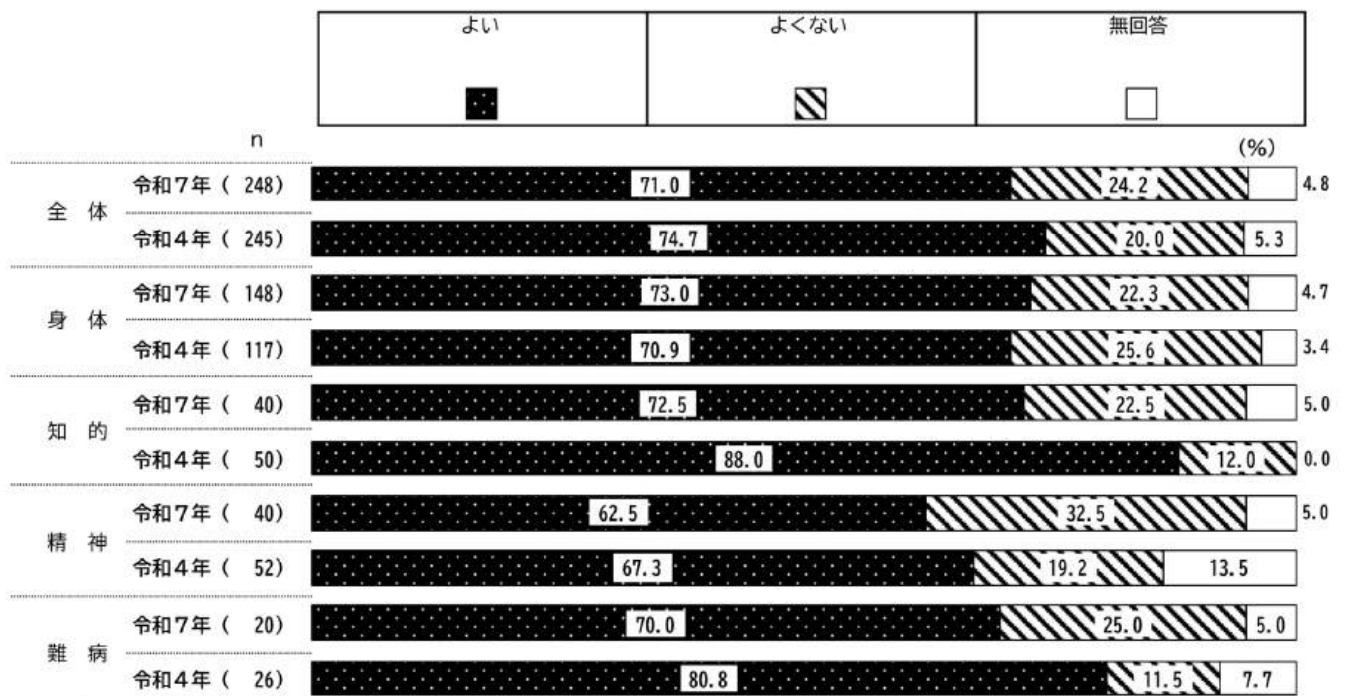
令和4年調査と比較すると、全体では、「よくない」が4.2ポイント増加し、「よい」が3.7ポイント減少している。

調査票種別で見ると、「よい」が身体では2.1ポイント増加している一方、知的では15.5ポイント減少している。「よくない」が難病で13.5ポイント、精神で13.3ポイントそれぞれ増加している。

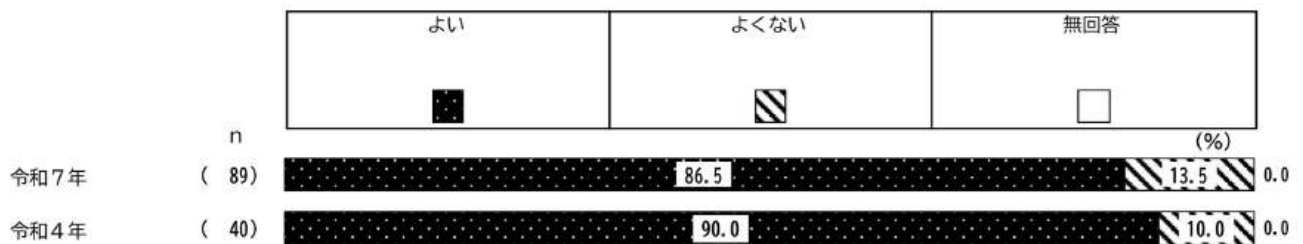
障害児では、「よくない」が3.5ポイント増加し、「よい」が3.5ポイント減少している。

身内の介助者の健康状態は全体・障害児ともに「よくない」が増加しており、介助での心身負担により介助者の健康状態が懸念される状況であるため、身内の介助者への支援体制の充実・拡充が求められる。

主な介助者の健康状態（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



主な介助者の健康状態（経年比較）＜障害児＞



(5) 主な介助者の相談できる場の有無

<身体、知的、精神、難病調査の質問>

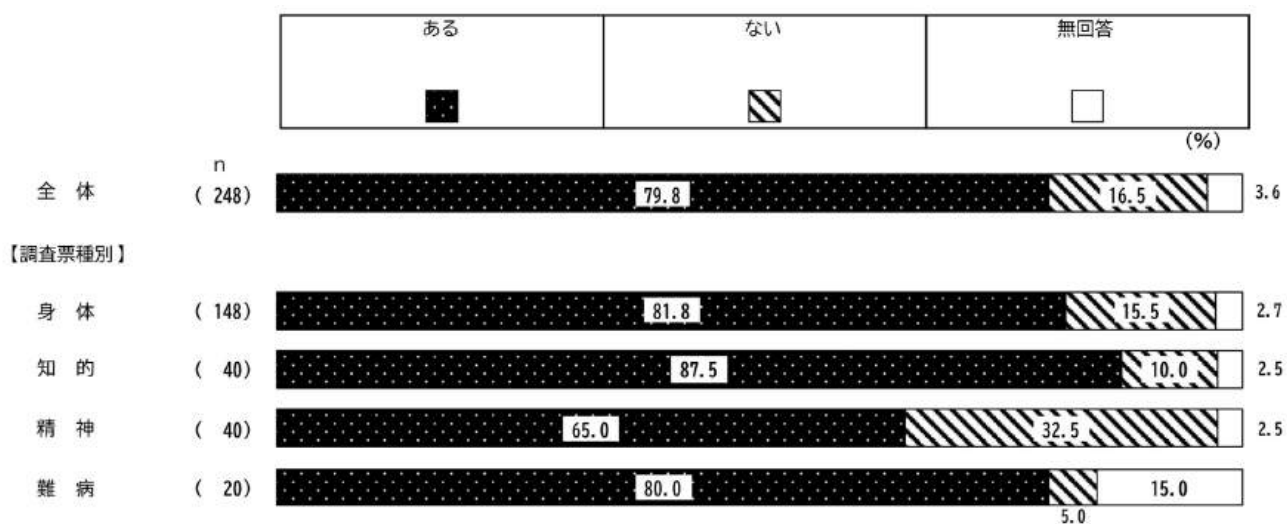
(主な介助者として「父母」「祖父母」「兄弟・姉妹」「配偶者(夫または妻)」「子ども」と答えた方にお聞きします。)

問 介助やご自身のことについて相談できる人や場はありますか。(1つだけに○)

主な介助者の相談できる場の有無について、全体でみると、「ある」が79.8%、「ない」は16.5%となっている。

調査票種別でみると、精神では「ない」が32.5%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

主な介助者の相談できる場の有無 <全体(身体、知的、精神、難病)>



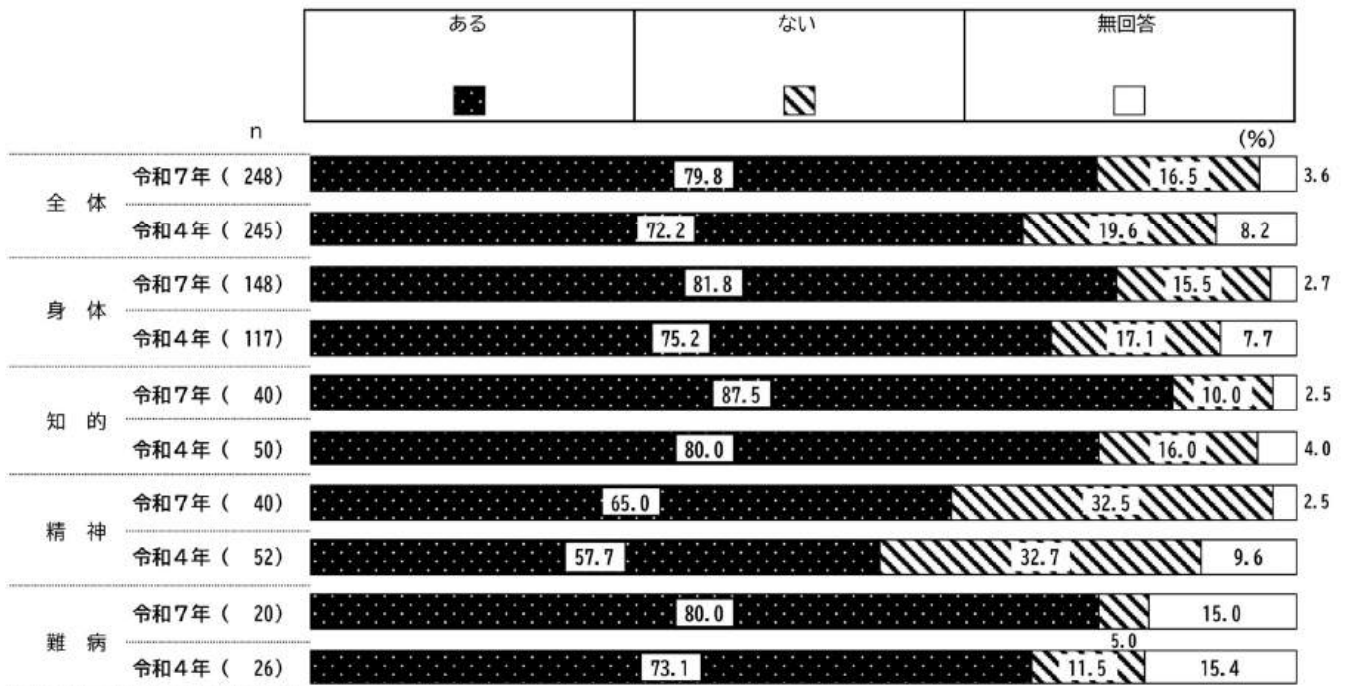
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「ある」と回答した割合が約8割まで増加した。

調査票種別でみると、「ある」が全種別で増加しており、特に知的で7.5ポイント、精神で7.3ポイントそれぞれ増加している。

身内の介助者の相談できる場が「ない」は全体では約2割以下にとどまっているものの、精神では令和4年調査に引き続き3割台と他種別と比べ高い傾向が続いている。

主な介助者の相談できる場の有無（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



(6) 介助者に必要な支援

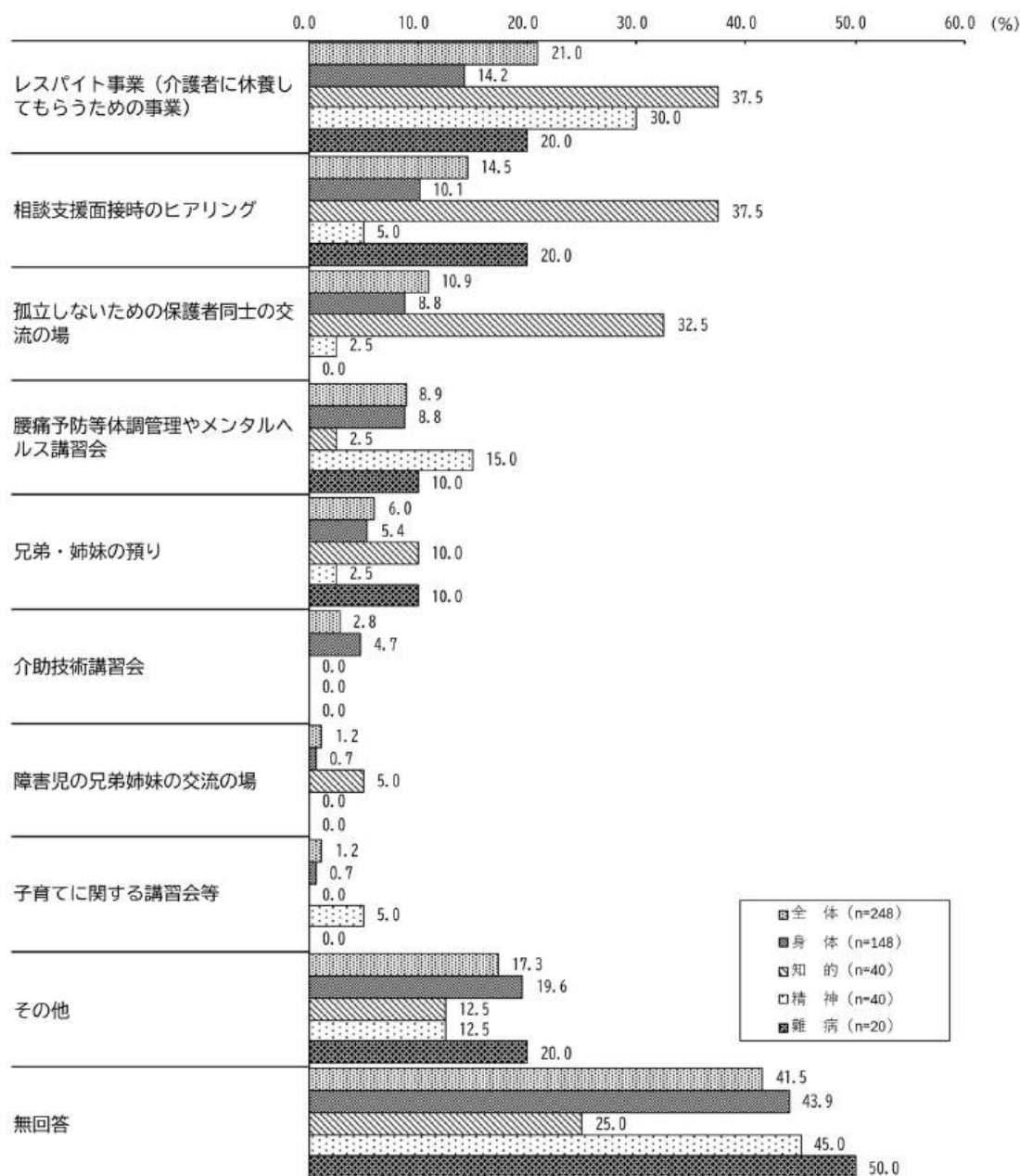
(主な介助者として、身体、知的、精神、難病調査では「父母」「祖父母」「兄弟・姉妹」「配偶者（夫または妻）」「子ども」、障害児調査では「父母」「祖父母」「兄弟・姉妹」と答えた方にお聞きします。)

問 介助している方に必要な支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

介助者に必要な支援について、全体でみると、「レスパイト事業（介護者に休養してもらうための事業）」が21.0%で最も高く、次いで「相談支援面接時のヒアリング」が14.5%、「孤立しないための保護者同士の交流の場」が10.9%などとなっている。

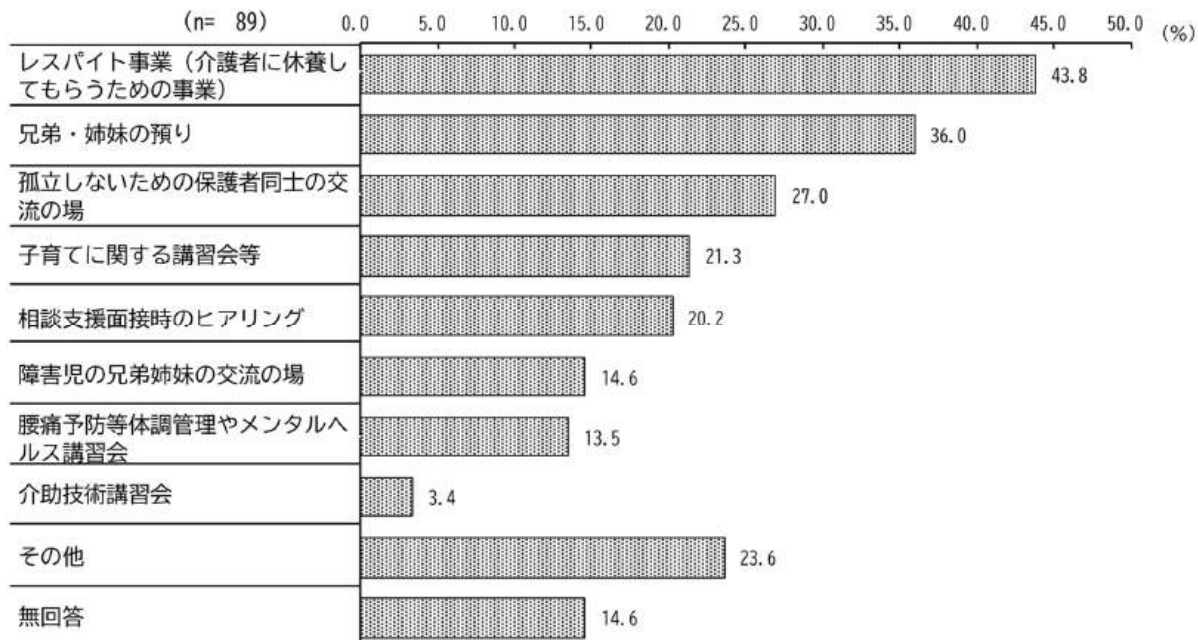
調査票種別でみると、身体、精神では「レスパイト事業（介護者に休養してもらうための事業）」、知的、難病では「レスパイト事業（介護者に休養してもらうための事業）」と「相談支援面接時のヒアリング」の割合が最も高くなっている。

介助者に必要な支援 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の介助者に必要な支援をみると、「レスパイト事業（介護者に休養してもらうための事業）」が43.8%で最も高く、次いで「兄弟・姉妹の預り」が36.0%、「孤立しないための保護者同士の交流の場」が27.0%などとなっている。

介助者に必要な支援 <障害児>



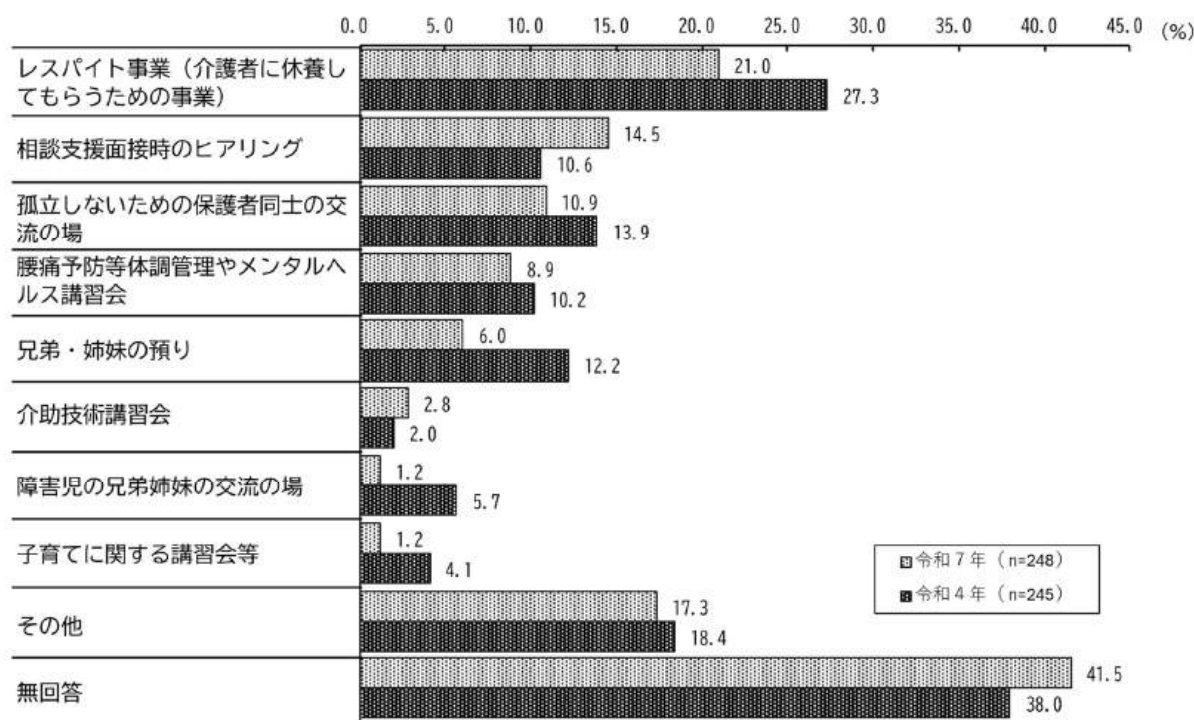
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体・障害児ともに「レスパイト事業（介護者に休養してもらうための事業）」が最も高くなっているが、全体においては令和4年時より6.3ポイント減少している。一方、「相談支援面接時のヒアリング」が3.9ポイント増加していることから、より一層丁寧な聞き取り対応の実現が求められる。

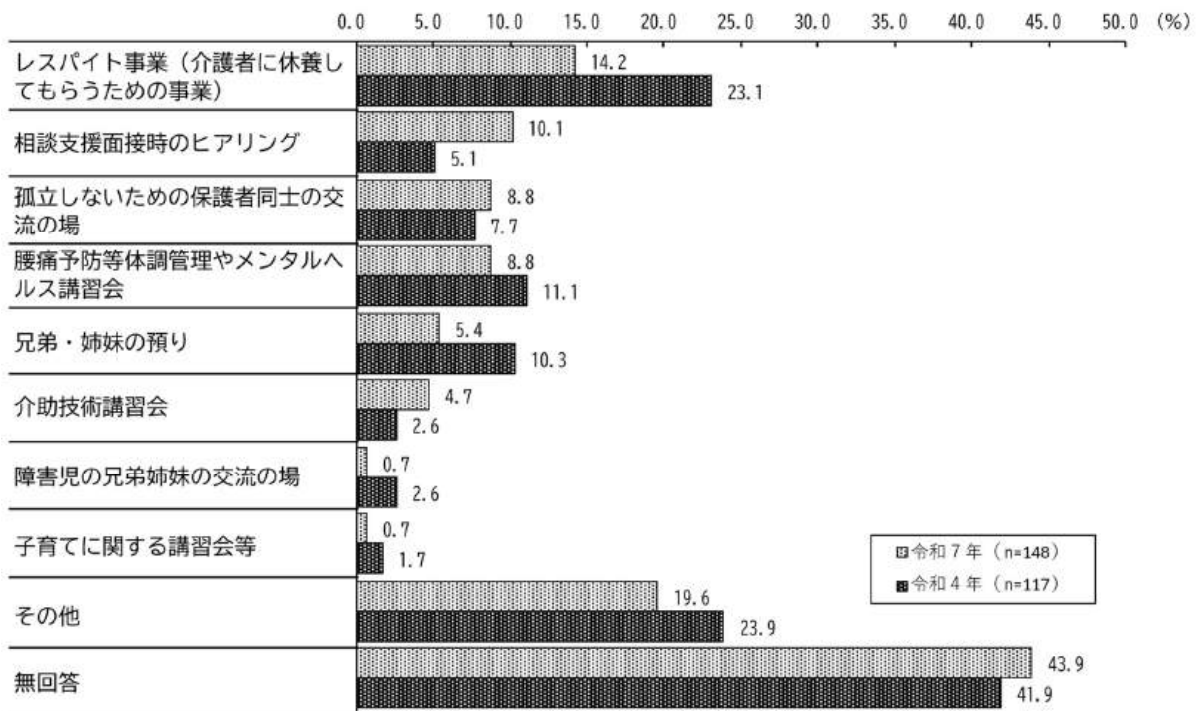
障害児では「レスパイト事業（介護者に休養してもらうための事業）」が11.3ポイント、「兄弟・姉妹の預り」が8.5ポイントそれぞれ増加している。

全体・障害児ともに、ショートステイなどの外部支援環境の整備及び拡充による介助者の負担軽減が求められており、加えて障害児を抱える世帯に向けては介助に専念できる環境づくりの整備が必要とされる。

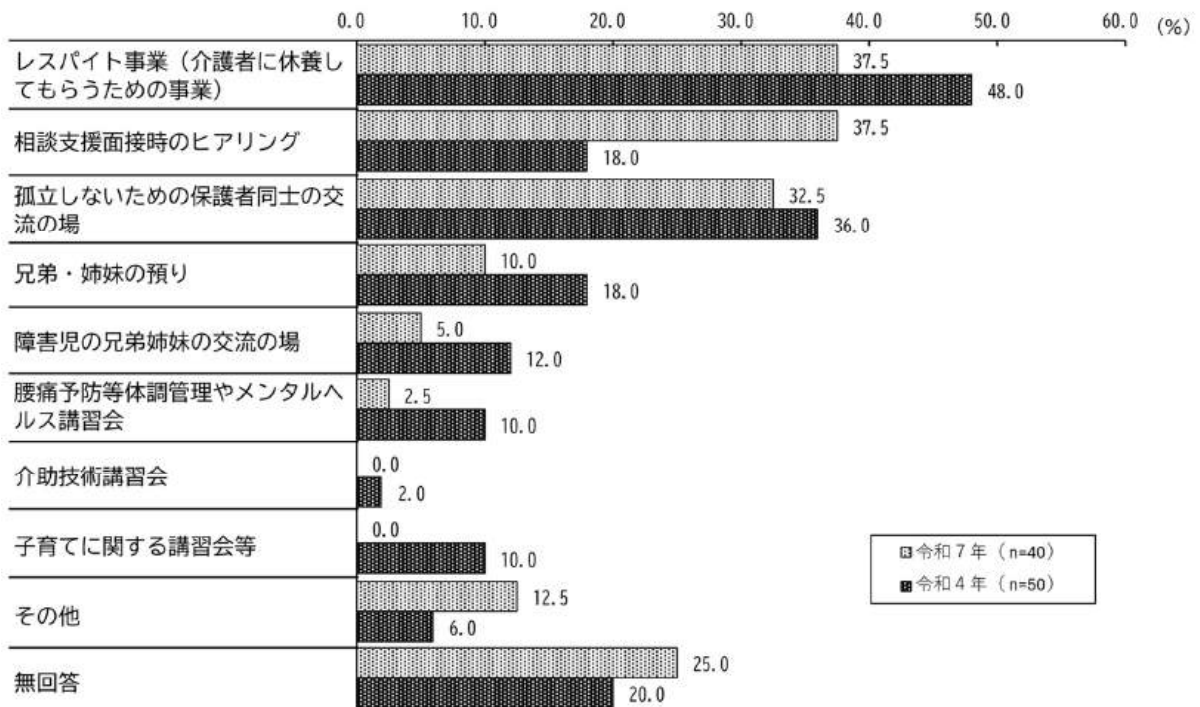
介助者に必要な支援（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



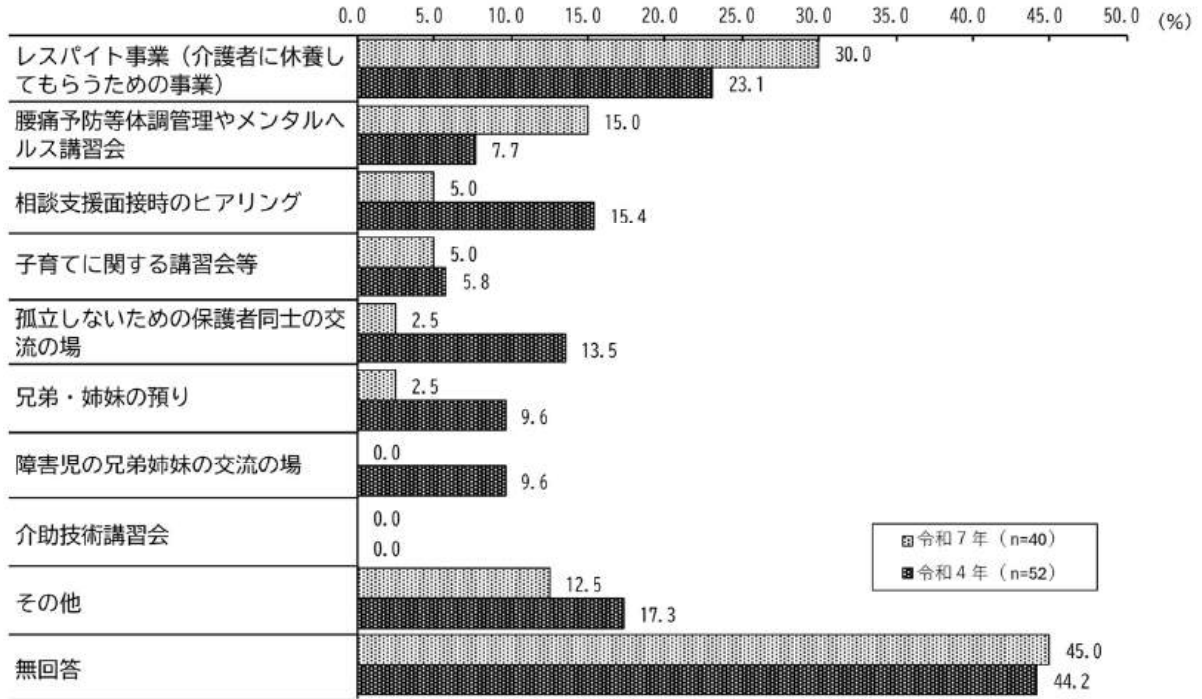
介助者に必要な支援（経年比較）＜身体＞



介助者に必要な支援（経年比較）＜知的＞



介助者に必要な支援（経年比較）＜精神＞



介助者に必要な支援（経年比較）＜難病＞

